

岩手県立博物館調査研究報告書 第六冊
Reserch Report on Iwate Prefectural Museum. Vol. VI

岩手県

熊堂古墳群・浮島古墳群発掘調査報告書

Excavational Report of KUMANODŌ and UKISHIMA Mounded Tombs Cluster IWATE Pref.

1990

岩手県立博物館

Iwate Prefectural Museum.

岩手県立博物館調査研究報告書 第六冊

岩手県

熊堂古墳群・浮島古墳群発掘調査報告書

Excavational Report of KUMANODŌ and UKISHIMA Mounded Tombs Cluster IWATE Pref.

1990

岩手県立博物館

写真1：浮島古墳群10号
墳出土ガラス玉

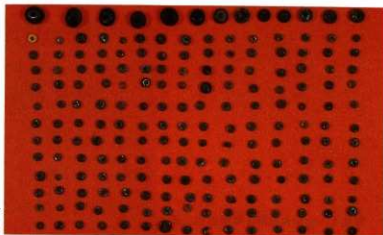


写真2：熊堂古墳群4号
墳出土ガラス玉

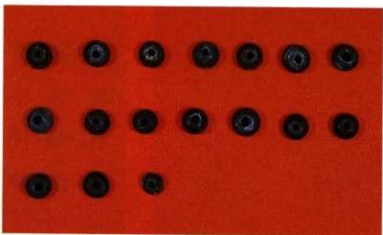


写真3：熊堂古墳群4号
墳出土ガラス玉

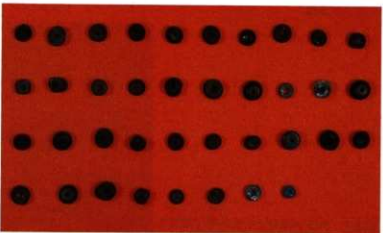


写真4：熊堂古墳群4号墳出土土玉

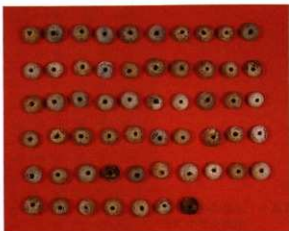


写真5：熊堂古墳群4号墳出土切子玉・玉髓



写真6：熊堂古墳群出土土玉(平野コレクション)

写真7：熊堂古墳群出土切子玉（平野コレクション）

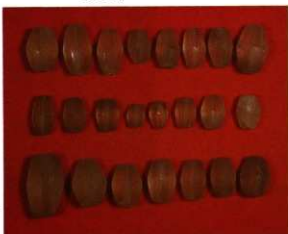


写真8：熊堂古墳群出土管玉・ガラス玉
(平野コレクション)



写真9：熊堂古墳群出土勾玉 (平野コレクション)



写真10：熊堂古墳群出土切子玉・勾玉・
土玉・ガラス玉 (平野コレクション)



写真11：熊堂古墳群出土ガラス玉（平野
コレクション）



写真12：熊堂古墳群出土ガラス玉（平野
コレクション）

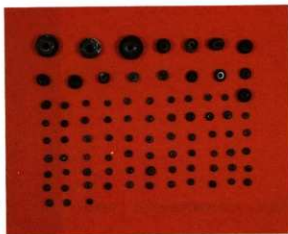
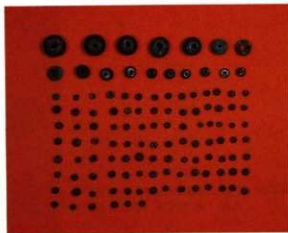


写真13：熊堂古墳群出土ガラス玉（平野
コレクション）上から3列目左
から3個まで、4個目からは浮
島古墳群出土ガラス玉（岩手大
学蔵）



刊行にあたって

岩手県立博物館では、今年度夏に、東北地方の古墳時代から平安時代にかけての資料を中心として、「古代・みちのく・エミシの世界」と題した企画展を開催いたしました。その40日にわたる会期中、およそ2万人の方々にご来館いただき、大きな反響と、御好評を賜ることができました。多くの県民の方々が、わが岩手の古代史に大きな興味を抱かれていることを、改めて感じさせられたのであります。

かつて、本県をはじめとする東北地方北部の古代史研究は、それを論ずる考古学的資料が希薄で、その実態に迫ることは多くの困難を有しておりました。しかし、近年、各地で実施されてきた多くの発掘調査によって充実した資料の蓄積が図られてまいりました。特に、県内の古墳群については、その分布や年代、さらにその歴史的解釈を含めての再検討も必要になったと言われております。

今回の調査研究報告書は、このような古墳に関しての基礎資料の収集を目的に昭和61年度から63年度にかけて実施した発掘成果を報告するものであります。

花巻市熊堂古墳は、古く藩政時代からその存在が知られ、明治30年代から大正時代にかけて、広く学界に紹介されてきた遺跡であります。また、岩手町浮島古墳群も、大正12年、古墳研究の碩学、京都大学の梅原末治先生によって注目されて以来、昭和33年に県の指定史跡となるなど、その学術的価値はつとに知られていたところであります。

当館の発掘調査は、その調査面積は少ないものの、いくつかの貴重な成果が得られました。本報告が、これからの東北古代史の実態究明の上で、一助を果たすことができましたなら幸いであります。

最後に、両遺跡の調査および本報告書の刊行にあたり、ご指導ご協力賜りました関係各位に厚く御礼申し上げる次第であります。

平成2年3月

岩手県立博物館

館長 金子彰吉

例 言

1. 本書は、岩手県花巻市上根子字熊堂に所在する熊堂古墳群および岩手県岩手郡岩手町大字土川に所在する浮島古墳群に関わる発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は、岩手県立博物館が主体となり、館の調査研究活動の一環として実施した。

熊堂古墳群 第一次調査 昭和61年7月28日～8月9日

第二次調査 昭和62年8月5日～8月11日

浮島古墳群 昭和63年10月27日～11月2日

調査員 熊堂古墳群 第一次調査 高橋信雄、小田野哲憲、熊谷常正

第二次調査 高橋信雄、熊谷常正、佐々木清文

浮島古墳群 熊谷常正、佐々木清文、佐藤嘉広

3. 本発掘調査と発掘調査によって得られた資料の分析は、岩手県立博物館・熊谷、佐々木、佐藤、木村克則、赤沼英男が主に担当した。

4. 本書の編集は、熊谷、佐々木、佐藤の協議のもと、佐々木が総括した。また、執筆区分については文章中に表記した。

5. 調査によって得られた遺物・写真・実測図等は、岩手県立博物館が保管している。

6. 発掘調査および本報告の刊行にあたり、次の機関、個人等から協力・指導を賜った。

〔調査指導〕桜井清彦(昭和61年度) 小林三郎(昭和62年度) 高橋昭治(昭和63年度)

〔機関〕花巻市教育委員会、岩手町教育委員会、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、岩手県教育委員会事務局文化課

〔個人〕会田容弘、青山浩子、伊藤敦子、伊藤博幸、上村美賀子、及川直子、大巻正一、大巻忠一、大巻るみ子、鎌田裕二、帷子俊雄、菊池啓治郎、菊池徹夫、菊地芳朗、桐生正一、小向裕明、酒井宗孝、佐々木こころ、佐々木勝、佐藤浩彦、沢口たまみ、高田和徳、高橋亜貴子、高橋文明、高橋まゆみ、高橋与右衛門、玉川英喜、中村良幸、西野 修、沼山源喜治、根子英郎、府金邦忠、藤井敏明、藤沢 敦、藤村東男、藤村靖子、本堂寿一、米田敏男、三熊啓子、三浦謙一、渡辺泰伸

目次

序	5	9号墳	39
例言	7	参考品	39
Summary	15	III 浮島古墳群	45
I 岩手県内の古墳群研究の歩み	17	1. 立地と環境	45
文献目録	23	2. 調査の概要	47
II 熊堂古墳群	27	3. 墳丘	49
1. 立地と環境	27	4. 主体部	49
2. 調査の概要	28	5. 周濠	51
2号墳	29	6. 出土遺物	52
4号墳	33	IV 熊堂・浮島古墳出土ガラス玉の分析	76
6号墳	38	V 考察	79
8号墳	38		

挿図目次

第1図 岩手県内の末期古墳および 前後する時代のおもな集落遺跡の分布	16	第18図 浮島古墳群の分布と発掘区	50
第2図 熊堂古墳群および周辺遺跡分布図	27	第19図 浮島古墳群10号墳・16号墳発掘区平面図 および10号墳周濠層序断面図	52
第3図 熊堂古墳群A区平面図	29	第20図 浮島古墳群10号墳主体部平面図 および層序断面図	54
第4図 2号墳墳丘実測図(1)	29	第21図 浮島古墳群10号墳主体部 および周濠出土遺物実測図	57
第5図 2号墳墳丘実測図(2)	30	第22図 浮島古墳群出土遺物実測図 (1957年調査資料)	58
第6図 トレンチ壁面図	31	第23図 岩手県内末期古墳主体部集成図(1)	76
第7図 2号墳石室実測図	32	第24図 岩手県内末期古墳主体部集成図(2)	77
第8図 4号墳発掘範囲	33	第25図 岩手県内末期古墳主体部集成図(3)	78
第9図 4号墳石室実測図	34	第26図 岩手県内末期古墳主体部集成図(4)	79
第10図 4号墳遺物出土分布	35	第27図 熊堂古墳および浮島古墳土直刀・ 鍔手刀X線写真	80
第11図 4号墳出土刀剣類実測図	36	第28図 和賀町長沼古墳および矢巾町藤沢秋森 古墳出土直刀・鍔手刀X線写真	81
第12図 4号墳出土玉類実測図	37	第29図 各グループの元素濃度パターン	84
第13図 8号墳実測図	38	第30図 五条丸古墳群の主体部類型 および主軸方向と副葬品の組み合わせ	91
第14図 9号墳実測図	39		
第15図 熊堂古墳群出土刀剣類実測図 (花巻市教育委員会保管・調査資料)	40		
第16図 熊堂古墳群出土遺物実測図 (平野コレクション)	41		
第17図 浮島古墳群とその周辺遺跡	49		

写真図版目次

写真1 浮島古墳群10号墳出土ガラス玉	1	写真3 熊堂古墳群4号墳出土ガラス玉	1
写真2 熊堂古墳群4号墳出土ガラス玉	1	写真4 熊堂古墳群4号出土土玉	2

写真5	熊堂古墳群4号墳出土切子玉・玉髓……………2	写真21	4号墳発掘状況……………33
写真6	熊堂古墳群出土土玉(平野コレクション)……2	写真22	4号墳石室検出状況……………33
写真7	熊堂古墳群出土切子玉(平野コレクション)…2	写真23	4号墳石室検出状況……………35
写真8	熊堂古墳群出土管玉・ガラス玉 (平野コレクション)……………3	写真24	4号墳遺物出土状況(1)……………35
写真9	熊堂古墳群出土勾玉(平野コレクション)……3	写真25	4号墳遺物出土状況(2)……………35
写真10	熊堂古墳群出土切子玉・勾玉・土玉・ ガラス玉(参考品)……………3	写真26	8号墳検出状況……………38
写真11	熊堂古墳群出土ガラス玉(平野コレクション)4	写真27	8号墳石室検出状況……………38
写真12	熊堂古墳群出土ガラス玉(平野コレクション)4	写真28	9号墳石室検出状況……………39
写真13	熊堂古墳群出土ガラス玉 (平野コレクション)・ 浮島古墳群出土ガラス玉(岩手大学蔵)……4	写真29	浮島古墳付近空中写真……………49
写真14	熊堂古墳群4号墳出土刀剣類……………11	写真30	浮島古墳群遠景……………51
写真15	熊堂古墳群出土刀剣類 (花巻市教育委員会保管調査資料)……………12	写真31	浮島古墳群近景(1)……………51
写真16	熊堂古墳群出土遺物(平野コレクション)……13	写真32	浮島古墳群近景(2)……………51
写真17	浮島古墳群出土遺物 (含岩手町教育委員会保管資料)……………14	写真33	10号墳・16号墳検出状況……………51
写真18	熊堂古墳群空中写真……………28	写真34	10号墳主体部検出状況……………53
写真19	2号墳石室検出状況……………31	写真35	主体部完掘状況(1)……………53
写真20	2号墳石室復元状態……………31	写真36	主体部内遺物出土状況……………55
		写真37	周濠埋土堆積状況……………55
		写真38	周濠発掘状況……………55
		写真39	須恵器片出土状況……………55
		写真40	主体部検出状況(2)……………56
		写真41	調査説明会風景……………56

表 目 次

表1	岩手県内末期古墳関係文獻一覧(1)……………23	表14	末期古墳一覧表(1)……………62・63
表2	岩手県内末期古墳関係文獻一覧(2)……………24	表15	末期古墳一覧表(2)……………64・65
表3	岩手県内末期古墳関係文獻一覧(3)……………25	表16	末期古墳一覧表(3)……………66・67
表4	岩手県内末期古墳関係文獻一覧(4)……………26	表17	末期古墳一覧表(4)……………68・69
表5	熊堂古墳群4号墳出土刀剣類計測表……………42	表18	末期古墳一覧表(5)……………70・71
表6	熊堂古墳群出土刀剣類計測表……………42	表19	末期古墳一覧表(6)……………72・73
表7	熊堂古墳群4号墳出土玉類計測表……………42・43	表20	末期古墳一覧表(7)……………74・75
表8	熊堂古墳群出土玉類計測表 (平野コレクション)(1)……………43~45	表21	熊堂古墳群・浮島古墳群出土ガラス玉の 半定量分析結果……………84
表9	熊堂古墳群出土玉類計測表 (平野コレクション)(2)……………45~47	表22	熊堂古墳群・浮島古墳群出土ガラス玉の 定性分析結果一覧表……………84
表10	熊堂古墳群出土玉類計測表 (平野コレクション)(3)……………47・48	表23	末期古墳副葬品相互の共存関係……………86
表11	浮島古墳群出土刀剣類計測表……………59	表24	直刀および勾玉と より古い段階と考えられる副葬品との 組み合わせと主体部類型との関係……………89
表12	浮島古墳群10号墳出土ガラス玉計測表……………59・60		
表13	浮島古墳群9・11号墳出土ガラス玉計測表……………61		



写真14：熊堂古墳群4号墳出土土刀剣類



写真15：熊堂古墳群出土刀剣類
 (花巻市教育委員会保管調査資料)



写真16：熊堂古墳群出土遺物(平野コレクション)

22-bは和同開珎の箱書

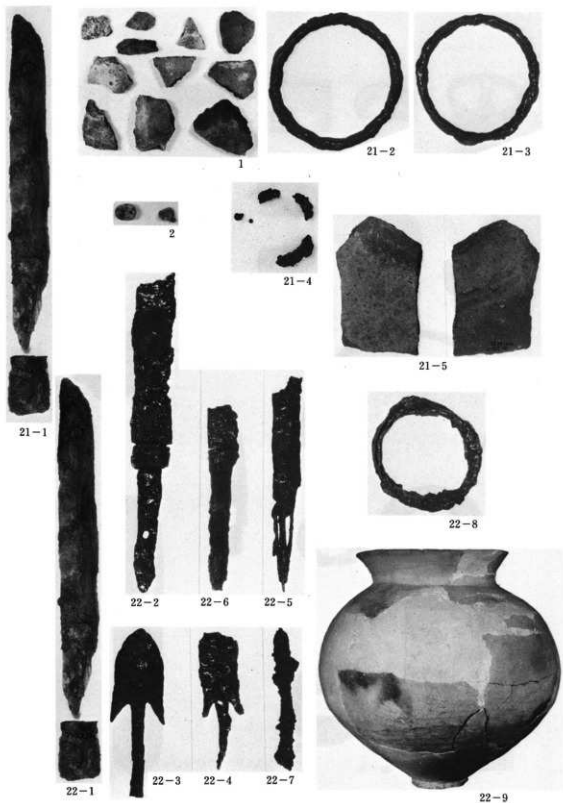


写真17：浮島古墳群出土遺物
(含岩手町教育委員会保管資料)

SUMMARY

We excavated KUMANODŌ mounded tomb cluster and UKISHIMA mounded tomb cluster to research the historical structure in the period when this region had not been subject to Codified Penal and Administrative Laws reign.

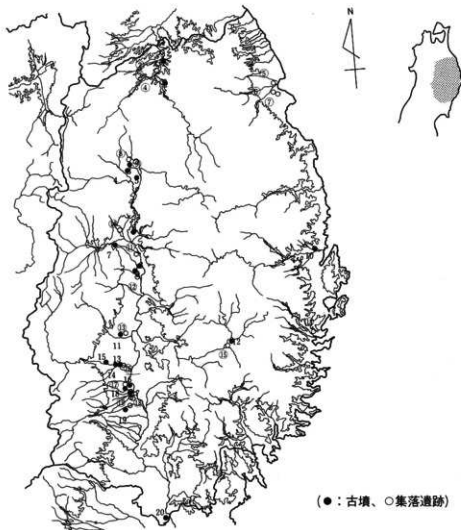
This mounded tomb is called *Makkikofun*. Since the 1950's, KUSAMA Shun-ichi and other researchers have excavated the tombs of this type. Many researchers agreed that most of these mounded tombs had been constructed in the Nara period.

KUMANODŌ mounded tomb cluster is located at Kumanodō, Kamineko, Hanamaki City. There were about 50 mounded tombs around that area, but now we can recognize only 6 mounds. Many of them are already destroyed or at least burial mound is planed. We excavated A-2, A-4, A-8 and A-9 tombs. We found an iron sword with a curled fernfrond ornament on the hilt and glass and clay round beads in the stone chamber of A-4 tomb. A-2, A-8 and A-9 tombs are partially destroyed and no remains are found. A-2 tomb has the ditch surrounding the stone chamber. All the burial structures of these tombs are the piled stone chamber. But there are other types of burial structure in this cluster.

UKISHIMA mounded tomb cluster is located at Shinden, Tsuchikawa, Iwate-Town. We can now recognize 14 mounds in this area. We discovered №10 and 16 tomb, both mounds were planed. In №10 tomb, we found a sword, two bracelets, an ear-ring and glass round beads in the pit for burial, and several sherds of Haji-ware and Sue-ware in the ditch surrounding the settlement tomb. This mounded tomb cluster has only a pit for the burial structure.

On the basis of this result, we try to approach the historical character of these mounded tombs by analyzing the funeral equipments and their assemblages. Most of the swords, Sue-ware and Haji-ware in the burial structure were made in the 7th century. These funeral equipments sometimes associate with iron arrowheads, knives, sickles, spades and horse trappings. Comma-shaped and cylindrical beads often associate with glass round beads and other items, but they seldom associate with swords or iron arrowheads.

We can interpret this unbalanced assemblage as the difference in the character of buried person or the chronological sequence of mounded tombs. Burial structure, that the distribution of each type is different, is not correlated with chronological order only from the viewpoint of the consideration of funeral equipments. We have to clarify many more historical facts of this period.



第1図 岩手県内の末期古墳および前後する時代のおもな集落遺跡の分布

古 墳

1. 二戸市堀野古墳 2. 一戸町御所野遺跡 3. 岩手町浮島古墳 4. 西根町谷助平古墳 5. 玉山村永井古墳
6. 盛岡市上田堰奥森古墳 7. 盛岡市上太田秋森古墳 8. 矢巾町藤沢秋森古墳 9. 矢巾町白沢遺跡 10. 宮古市長根1遺跡
11. 花巻市飯堂古墳 12. 遠野市高瀬2遺跡 13. 江釣子村鎌谷地古墳 14. 江釣子村五条丸古墳 15. 和賀町長沼古墳
16. 金ヶ崎町水口沢古墳 17. 金ヶ崎町西根蔵街道古墳 18. 金ヶ崎町道場古墳 19. 水沢市見分森古墳 20. 花巻町杉山古墳

集落遺跡

- ①. 二戸市長瀬遺跡 ②. 二戸市上田面遺跡 ③. 二戸市中曾根遺跡 ④. 一戸町北館3遺跡 ⑤. 久慈市源道遺跡
- ⑥. 久慈市中長内遺跡 ⑦. 久慈市平沢1遺跡 ⑧. 岩手町今松遺跡 ⑨. 岩手町仙波堤遺跡 ⑩. 滝沢村高柳遺跡
- ⑪. 郡南村百目木遺跡 ⑫. 紫波町稲村遺跡 ⑬. 花巻市古館2遺跡 ⑭. 大館町夏本遺跡 ⑮. 遠野市蓬田遺跡
- ⑯. 江釣子村鎌谷地遺跡 ⑰. 金ヶ崎町上耕田遺跡 ⑱. 水沢市今泉遺跡 ⑲. 水沢市勝性遺跡 ⑳. 水沢市石田遺跡

I 岩手県内の古墳をめぐる研究史

——その年代観の変遷を中心にして——

岩手県内に所在する古墳群に関する記録は、藩政時代から散見できる。これらは古墳所在地を偶然に掘りあてたものもあるが、好事家の濫掘・盗掘によるものも少なくない。

その嚆矢は、盛岡藩の家老席日誌である『雑書』中、寛文12年(1671)4月22日の条に記される志波郡徳田村の夷塚(現:矢巾町藤沢狄森古墳)の記録といわれる。この古墳は古くから塚の存在は知られており、「土入用有之彼塚掘候処、夷太刀一腰、金具共堀出」と大刀と金具の出土が知られる。藤沢狄森古墳群に関しては、このほかにも記録がある(註1)。

次いで、安永～寛政年間(1772～1800頃)の成立年代を持つ『邦内郷村誌』(巻七 稗貫郡萬丁目縣 上根子村 熊野社)の記録に、熊堂古墳の記事がある。この記録は享保年間成立と考えられる松井道円の『和賀稗貫郷村誌』に多少の増減を加えたものである。『邦内郷村誌』の記事中に「其中如刀類者腐敗僅残焉。柄頭飾白銀。其重三十目許。」とあり、白銀の柄頭の出土は注目できる。また、横川良介(1774～1857)の著作にかかる『内史略』(前五 奥新旧抜卒稗貫郡旧記 上根子村)は、前二者と同様の記述に加え、発掘の記録が記載される。これは寛政11年(1799)八幡寺林代官に赴任した星川茂衛(吉寛)(1737?～1811)による発掘で、白玉1、刀の出土と共に、石積みの主体部の記載がある。星川は、その前任地黒沢尻通り代官時代の寛政9年(1797)、江釣子北鬼柳村(現:江釣子村)で、古墳の発見に遭遇しており、その記録を残している(註2)。

それには石室のスケッチと共に、「石郭川石を以組立間を柶者土(ねぼつち)にて塗り其上に二尺餘りの大石を梁とす。其上に大小の石を積重ね、口は何れも東南に向ふ也。大豆程の砂利を鋪き平き石を置その上に刀を置たるなり」という観察が述べられる。また蕨手刀のスケッチと計測値あるいは方頭大刀を復元して描くなど刀剣類や馬具、玉類にも記述が及ぶ。吉寛自身の所見は、「古代の穴居の跡とも見得ず、踰躍する事かたるへし。今世の穴倉のこくと武器器の類を蔵す処ならんか」とする。また、その年代に関しては、刀剣類の特徴から別紙に「此もの千年餘も経たるもの可」としている。

この北鬼柳村の古墳の記録は、その後、吉寛の孫にあたる星川正甫(1805～1880)が明治7年(1874)に著した『公国譚』にもとりあげられている。また、吉寛の記録の直後、寛政12年(1800)刊行の桂川甫周『桂林漫録』に北鬼柳の古墳出土品として蕨手刀一振、直刀一振それに鐔・柄頭(方頭?)・鞘尻金具・双脚の足金物などの図と解説が掲載される。だが、この桂林漫録は、南部藩士北條永斎からの話であり、吉寛による文書や公国譚に描かれた図とは異なる。

むしろ、蔵手刀をはじめとする資料が北鬼柳の古墳群からほかに出土したことを証明するものと解釈すべきである。なお、北鬼柳の古墳をめぐる記録類に関しては、小笠原迷宮(1928)、吉田義昭(1954)に詳しい。

このように星川吉寛は、岩手の古墳研究の先達として評価すべき人物と思われ、彼の視点は十分現在でも傾聴に値する。

明治時代になると、島村孝三郎(1893)による熊堂古墳、三宅米吉(1897)による金ヶ崎町西根古墳出土品の紹介など、在京の研究者によってこれらの古墳が注目され始め、八木樊三郎(1899)によって、岩手県下の古墳41箇所が集成される。無論、八木の集成した遺跡の中には、明らかに古墳あるいは横穴墓と認められないものも含んでいる。しかし、この段階では、こと遺物に関するかぎり、「他の諸所より獲るものと異なる所なし」(三宅)、「大略関東関西の古墳遺物と大差無きを知るに足らん」(八木)と述べている。

古墳に対する遺物収集目的の盗掘は、明治期以降も各所で頻繁に行われる。特に、熊堂古墳は明治35年頃、当時の稗貫郡長によって大半が盗掘された。その際の出土資料を、明治38年柴田常恵が実見し紹介している(1906)。柴田は、墳丘規模・主体部の状況・出土品の概要を述べるが、和同開珎の出土について、「之れを事実とせば、古墳内へ貨幣を収めし一新事例のみならず、古墳の時代、当時の交通、文化の状態を知るに極めて有益なるものあり」と記し、「東北地方の古墳が畿内及び関東におけるものよりも比較的年代の新しきこと」とその年代観をしめした。

これらの資料は、後に小笠原謙吉(迷宮)(1879~1942)により、詳細に紹介される(1923、1924)が、柴田自身は鈿帯金具の存在は知りつつも、年代資料としての評価はしていない。和同開珎は、大正12年金ヶ崎町西根古墳からも発見され、鈿帯金具・鉄刀・玉類等と共に当時の帝室博物館に収蔵される。特に西根古墳の鈿帯金具は、高橋健自(1923)などによって紹介されていく。時期が前後するが、この西根古墳出土資料として大野雲外(1903)によって五鈴鏡が紹介されている。しかし、これは後年、高橋健自(1924)によって偽物と評価される。高橋は同時に、小笠原報文(1923)で頭椎大刀と紹介された資料に対し、「三箇の素環を累ねた形の環頭」と三累環頭ととれるような表現で鑑定していることは無視できない。なお、大野は西根古墳に、周遑の存在に注目していることを指摘しておきたい。

このように、和同開珎の出土が紹介されて以降、本県の古墳を奈良時代以降にその年代を想定することが一般化していく。

大正時代には、笠井新也(1918)が、盛岡周辺の古墳群を巡見し、藤沢秋森古墳などが「無

石棺・無石室の小古墳」であると報告した。そして、これらの系譜を、「仙台地方に於いて、既に一步衰頹に赴いた古墳は既に盛岡まで来れば斯くの如く殆ど見るに足りない末路の状態となつて、もはやその廃絶の遙からざることを示して居ります。」とした。これに対し、小笠原謙吉(1928-a)が熊堂古墳などの石室を根拠に「妄断」との見解を示すが、笠井(1928)は、早速、盛岡と和賀地方の地域的相違と反論し、小笠原(1928-b)もこれを認めている。このように、北上川流域の古墳群でも、その主体部に幾つかのタイプが存在が認められるようになっていく。

そのひとつが、岩手町浮島古墳の主体部に石を全く持たない古墳の確認である。浮島古墳は、大正9年7月に、小田島禄郎(1881~1953)によって発見され、大正12年7月柴田常恵の踏査の後、同年9月梅原末治によって発掘が行われた。

梅原は、当時京都帝国大学文学部長であった盛岡出身の原勝郎の紹介で、土師器を出土する竪穴の調査を目的に来訪したものであったが、小田島の懇願によって14基確認した古墳のうち一基を発掘している。

梅原(1924)の報告によれば、主体部は長さ七尺五寸、巾中央で二尺を計り、両端が丸みを帯びた細長い平面形のものであったという。そして最下層に粘土を叩いて作った堅い層、その上に「一二寸の炭化した物質が存し、半ば焼けて細片となって骨片が白く木炭質の上方に点在し、縁の方にはなほ燃えきらない木質のあるのが見られる。そして骨片から上二寸は焼けて赤色化した土砂の層で、更に其の上には中央で約二尺の普通の土砂が被さって表面となっている」ような断面構造と述べる。出土遺物は、刀子一口とガラス小玉4個のみであったが、刀子が外反りを示すこと、主体部を火葬によるものと見なし、高塚营造の風習が命脈を保っていることを意識しつつも、「遺跡所在地の僻遠な点」からその時期を「寧ろ平安朝に入つて其の初期のものとするのが穩当なる見解」としている。この発掘は、考古学者による古墳の発掘として本県の端緒を担うものである。梅原はその後、矢巾秋森古墳を踏査し、奈良期に属すると述べたと言う。

遺跡発見者の小田島は『岩手県史跡名勝天然記念物調査報告』にこれら県北地方の古墳の紹介を行い(1925)、小笠原も、同誌を中心に県内の古墳の記載を行っていく。特に、小笠原による県内古墳集成(1925)は、この時期における一つの到達点として評価しておきたい。

この集成の中で小笠原は、八木による集成(1899)や『古墳横穴及同時代遺跡遺物発見地名表』(1903)を元に、彼自身の踏査結果をふまえ、57箇所の遺跡を記載する。これは後年、『岩手県史 第一巻』(1960)などにも紹介されるが、中世の塚や伝承地も含まれている。小笠原は古墳の築造年代に関して、喜田貞吉の蔵手刀の解釈を援用しながら、「本県の古墳の濫觴を奈良朝以前にあるべき事を信ぜんと欲するものである」とする。また、墳丘形式については、江刺

郡内に方墳の存在を指摘する(註3)、これに関しては(1928)の中で、「北上川を中心として河東に於ける方形系と、河西の円形系とに類別することを得る」と述べている。

1930年代頃には、小田島が主宰していた雑誌『南部史談会誌』に小田島自身が本県古代史に関する概説を連載している(1934～1935)。それによれば、古墳の上限は和同開珎によって決定されるものといい、平安時代初期までの年代観で捉えていたことがわかる。なお、この頃宮崎礼(1936)によって長野県宮川村の古墳から和同開珎の出土が報告され、北上川流域以外の末期古墳との関係も無視できなくなった。昭和3年には、藤沢狄森古墳が仮指定史跡となり、昭和14年9月には、菅野義之助が西磐井郡花泉町杉山古墳を調査し、79基を確認したという。

戦後になって、1949年8月、伊東信雄・田中喜多美(1950)らによって胆沢町角塚古墳が埴輪をもつ前方後円墳であることが確認される(註4)。伊東(1952)は、角塚古墳を前期古墳の中で捉えるが、他の北上川流域の古墳との時代的脈絡についてこの段階では詳述していない。

その後20年ほどの間に、1951年江釣子村猫谷地古墳群、1952年盛岡市太田蝦夷森古墳、1955年花泉町杉山古墳群、1957年岩手町浮島古墳群、1958年水沢市見分森古墳群、1959年金ヶ崎町西根縦街道古墳群、1960年西根町谷助平古墳群、1962年江釣子村五条丸古墳群、1965年二戸市堀野古墳、1967年金ヶ崎町西根道場古墳群、1969年矢巾町藤沢狄森古墳群など、県内各地の古墳が発掘される。これらの発掘による成果について詳述できる余裕はないが、築造年代にだけ限ってみるならば、従来の奈良・平安初期から「古墳期最末端」(猫谷地)、「8世紀」(五条丸)、「8世紀の初葉から中葉にかけて」(西根縦街道)などの見解が主流を占めるようになっていく。

しかし、草間俊一は、まず浮島古墳の報告で梅原の火葬墳説に擬義を述べ、県北地方というだけで年代を新しくする危険性を指摘しながら、猫谷地古墳・杉山古墳と同一時期か若干異なる可能性を考えている。草間は谷助平、道場等さらに、和賀町長沼古墳群(1974)の報告にいたるまで、奈良時代に限定した年代観を持つことの危険性を一貫して説いてきた。草間がこのような見解をもつのは、一つには須恵器(提瓶)や土師器などの型式解釈があり、また古墳の石室構造の相違に着目したからと思われ、県内の古墳を大きく四者に分類している(1961)。また、この時期伊藤玄三(1968)も方墳の存在を指摘している。

だが、伊藤玄三(1968)による鈔帯金具と和同開珎の詳細な年代論から導きだされた論文が発表されて以来、岩手の古墳＝末期古墳＝8世紀という図式が定説として喧伝されていく。そして、次には、これら古墳群の《群》構造や被葬者の性格論へと研究目的が転移する傾向を捉えた。

沼山源喜治(1976)は陸奥北半に分布する末期古墳について五項目の特徴を掲げ、特に五条丸古墳群は、石室長が三類型あり、石室の主軸方位が二大別でき、それらの関係から地域別に

三つの群に分けられるとした。なかでも石室主軸方向は年代差を示すものと捉え、実年代の考定は本旨ではないとしつつも「7世紀後葉から8世紀末葉に至る」と考えた。林謙作(1978)は、同じ五条丸古墳を素材とし、副葬品の組みあわせを中心に、量的にも規則性が見られること、それは被葬者の所属階層を反映していることなどを、周辺の集落遺跡の構造を踏まえ論証した。しかし、年代に関しては林自身文末の(追記)に「年代差を捨象して議論をすすめてきた」とするものの、註10で「この時代(8世紀末)に「古墳文化」の波及をみとめるとすれば、すでに存在していない文化の影響を認めざるをえない。和賀川流域には7世紀に遡る古墳は、少なくとも今のところ、存在しない」と記している。

この1970年代は、各種の開発行為に伴う大規模な行政発掘が確立してくる時期である。そして、それらの資料によって土師器編年や古代集落構造研究に新たな展開が促される。この時期には、1971年盛岡市太田蝦夷森古墳、1973年江釣子村猫谷地古墳群、玉山村永井古墳、矢巾町白沢古墳群などのほか、各地での開発行為に先立つ調査が実施される。このような中で、県北地方を中心に円形周濠をもつ遺構が発見され、墳丘・主体部は無いものの古墳と極めて近い関係を有する墳墓として意識されていく。また、1974・75年胆沢町角塚古墳の測量調査、周湊部の確認調査が林謙作らによって行われ、夥しい量の埴輪が出土した。林(1976)は、この角塚古墳の築造時期を、5世紀末ないし6世紀初めに求める。そして伊東(1955)らのこの地域における農業生産の経済的発展、在地における社会的発展の結果としての角塚古墳の成立解釈に疑問を投げかけると同時に、いわゆる《群集墳》との関係については従来の見解の通り、8世紀の枠の中で捉えつつ、角塚とこれらには、年代・被葬者階層とも断絶のあることを指摘する。

しかしその一方で、各地の発掘調査による出土品から確実に8世紀を示す資料が希薄で、むしろ7世紀代としか比定できない資料が増加してくるという矛盾が顕在化してくる。まず、1978年、水沢市膳性遺跡で竪穴住居跡から圭頭大刀の杷頭が出土し、1980年には江釣子村五条丸古墳群の溝跡から7世紀後半に比定される甕が出土した。これらはいずれも、古墳からの出土ではないにしろ、少なくとも7世紀代の遺物で、杷頭や甕のように副葬品として差し支えない資料が古墳周辺あるいは集落遺跡に存在することが改めて確認されたのである。

1984年、矢巾町藤沢狄森古墳群が発掘され、10基の古墳が確認された。その5号墳の主体部からは1,200点を越す玉類と共に、刀子・鉄鏃・釧などが出土し、また13号墳の周濠からは土師器と共に7世紀中葉から後葉にかけての須恵器が出土した。また、12号墳主体部には、寸づまりながら単脚の足金物の付く方頭状の大刀、14号墳主体部からは細身のやはり単脚足金物をもつ直刀が発見され、以上のような出土遺物から報告者の西野修(1986)は、「8世紀代とする明確な資料は確認できず、反対に7世紀代に遡るという事実を確認できた。」と年代観を総括した。

その後、本報告にも掲載した花巻市熊堂古墳で方頭大刀が出土し、さらに盛岡市上田狄森古

墳での衝角付冑、八戸市丹後平古墳群15号墳周湊からの獅嚙式頭大刀把頭など7世紀あるいはそれを遡るような資料の蓄積が続き、東北地方北半の古墳群のあるものは少なくともその上限を7世紀に遡らせることが確認されたのである(註5)。

このような状況を踏まえ、高橋信雄(1987)は県内の末期古墳の主体部を、その構造を中心に10型式に分類し、それぞれからの出土遺物を検討しながら、敷石・土坑タイプを主とするA・B・C・D型墳は、積石を主とするE・F・G・H・I・J型墳に先行すると考えた。そして、「古墳文化は南から北に徐々に伝わるものであるという固定した観念があったのではないだろうか」として浮島古墳群の再評価を唱え、その系譜に関しても見直しを示唆している。また、伊藤博幸(1987)は、集落遺跡の在り方から地域的構造について分析を試みている。

このような年代観の展開と同時に、その分布についても岩手県内では再検討せねばならぬ発見が行われた。ひとつは宮古市長根I遺跡における古墳群の確認であり、遠野市高瀬遺跡での古墳群の発見である。沿岸地方・北上山地中という従来には知らなかった分布を示すことが明らかとなった。また、一戸町御所野遺跡での20数基という古墳群は、全く墳丘は失われており、馬淵川流域でも北上川中流域に類するような分布が追えることが確認された。これらの古墳群の築造時期については、和同開珎・立鼓大刀(長根I)などから新しい時期まで含めて検討せねばならないが、本県における古墳研究が、歴史叙述を含めて新たな段階に差ししかかっていることを改めて感じさせられるのである。(熊谷)

註1：17・18世紀代のものとして、長谷川安緯『藩譜拾遺』(1672)、清水秋全『増補行程記』(1751)、『奥南旧指録』(1752)、本堂富治『道中記』(1800?)等がある。

註2：1981年、盛岡市内の旧家から吉寛自筆と考えられる文書が発見された。現在、当館の所蔵にかかるものである。

註3：小笠原は前方後円墳について、志和村(現：紫波町片寄の墳館か?)に可能性を指摘するが、角塚に関しては一覧表に掲げるのみで、前方後円墳とは記載しない。

註4：角塚古墳出土の埴輪に関しては、水沢出身の民俗学研究者森口多利(1893～1984)の著作『町の民俗』(1944)に「短甲を模したと思われる埴輪」の存在が記されている。

註5：大塚・小林・熊野編『日本古墳大辞典』(東京堂出版 1989)で浮島古墳を執筆した小林三郎は、木炭郭に注目し5世紀中葉から6世紀代の築造と推定するが、これも無視できない見解であろう。

表1. 岩手県内末期古墳関係文献一覧(1)

発行年	編著	論文名	取録文献	収録頁	発行地
1893	島村孝三郎	岩手県下の古墳及び石器時代の遺跡	人類学雑誌 9-91	37-39	東京都
1897	三宅米吉	最北の古墳	考古学雑誌 6	260-261	東京都
1899	八木英三郎	東北地方に於ける人類学的旅行	人類学雑誌 15-165	87-94	東京都
1903	大野延太郎	東北旅中散見の遺物	人類学雑誌 18-206	332-333	東京都
1906	柴田常恵	東北地方踏査概要	人類学雑誌 21-243	337-347	東京都
1918	笠井新也	奥羽地方に於ける原史時代遺跡の概観(上)	考古学雑誌 8-6	314-334	東京都
1918	喜田貞吉	古代アイヌ族の墳墓	歴史地理 32	6-	
1922	小笠原謙吉	十三森・方八丁・古墳群	岩手県史蹟名勝天然記念物調査報告 2	5-6	盛岡市
1922	小笠原謙吉	蝦夷塚 湯口熊堂古墳群	岩手県史蹟名勝天然記念物調査報告 2	14-18	盛岡市
1922	小笠原謙吉	紫波郡に於ける古墳 赤石・徳田・飯岡・古館	岩手県史蹟名勝天然記念物調査報告 2	7-8	盛岡市
1923	小笠原謙吉	江刺郡に於ける古墳	岩手県史蹟名勝天然記念物調査報告 2	73-74	盛岡市
1924	伊能嘉矩	蝦夷塚 和賀横川目	岩手県史蹟名勝天然記念物調査報告 5	21-24	盛岡市
1924	梅原末治	陸中一方井村古墳群の調査	歴史と地理 13-5	18-27	京都市
1924	小笠原謙吉	和賀郡を出した陸中国熊堂の古墳群	考古学雑誌 14-7	431-434	東京都
1924	高橋健自	上代遺物より見たる大膳文化の輸入	考古学雑誌 14-15	19-41	東京都
1925	小笠原謙吉	岩手県下に於ける古墳分布の概況	人類学雑誌 40-1	11-22	東京都
1925	小笠原謙吉	再び陸中国熊堂古墳群に就て	考古学雑誌 15-12	830-831	東京都
1925	小田島禄郎	県北に於ける古墳の二三	岩手県史蹟名勝天然記念物調査報告 6	27-36	盛岡市
1925	高橋健自	「箇中所見」	考古学雑誌 15-10	69-70	東京都
1926	小笠原謙吉	岩手郡太田村蝦夷森古墳	岩手県史蹟名勝天然記念物調査報告 7	24-26	盛岡市
1926	小笠原謙吉	和賀郡江釣子村蝦夷塚	岩手県史蹟名勝天然記念物調査報告 7	19-22	盛岡市
1926	小笠原謙吉	平石地方の古墳	岩手県史蹟名勝天然記念物調査報告 7	22-24	盛岡市
1927	小笠原謙吉	平石及び御明神の古墳	岩手県史蹟名勝天然記念物調査報告 9	1-3	盛岡市
1927	喜田貞吉	奥羽地方に於ける古代支那文化の影響に就て	民族 2	197-	
1928	小笠原謙吉	岩手県最初の古墳発掘記録	東北文化研究 1-1	47-52	仙台市
1928	小笠原謙吉	奥州の古墳について笠井新也氏に謝す	東北文化研究 1-4	88-89	仙台市
1928	笠井新也	岩手県の古墳について弁弁	東北文化研究 1-2	28	仙台市
1928	鈴木貞吉	岩手県三大川に就る古墳群概略に就て	考古学雑誌 18-7	439-441	東京都
1929		仮指定史蹟 秋森古墳	史蹟名勝天然記念物	22-25	
1934	小田島禄郎	先史時代より藤末に至る文化流入の経路	南部史談会誌 6-12		
1936	宮崎弘	信濃宮川村の一古墳	考古学雑誌 26-1	45-59	東京都
1948	伊藤清司	ネツという地名	岩手県史蹟研究 1-1	35	盛岡市
1950	伊東信雄	古代東北地方の農業	日本歴史 22		
1950	田中喜多美	和賀郡江釣子村熊谷古墳	岩手県史蹟名勝天然記念物調査報告 12	37-39	盛岡市
1950	田中喜多美	胆沢郡南部村角塚古墳	岩手県史蹟名勝天然記念物調査報告 12	40-42	盛岡市
1951	菊池啓治郎・他	岩手県江釣子村熊谷古墳群調査報告	岩手県史蹟研究 9	16-	盛岡市
1951	小岩末治	史蹟候補・角塚古墳を語る	奥羽史談 2-1	6-8	盛岡市
1951	小岩末治	長者伝説と角塚古墳	雑文クラブ(開発クラブ) 3		
1952	伊東信雄	考古学上より見た古代の岩手県	岩手県史蹟研究 10	4-11	盛岡市
1953	小岩末治	岩手郡太田村の蝦夷森古墳を調査して	雑文クラブ(開発クラブ) 6-2		
1953	斎藤忠	日本北の古代文化	古代学 2-2	94-	京都市
1953	板井清彦・他	岩手県鬼柳村古墳群調査報告	古代		東京都
1954	吉田義昭	寛政年間江釣子古墳の発掘	奥羽史談 4-4	16-23	盛岡市
1955	菊池啓治郎	和賀郡岩崎村福田蝦夷塚発掘報告	岩手県史蹟研究 18	39-43	盛岡市
1955	小岩末治	岩手郡太田村蝦夷森古墳調査報告	岩手県史蹟研究 18	31-38	盛岡市
1955	滝口宏	岩手県和賀郡熊谷古墳群	日本考古学年報 4	117-118	東京都

表2. 岩手県内末期古墳関係文献一覧(2)

発行年	編 著	論 文 名	収 録 文 献	収録頁	発行地
1957	板 井 清 彦	岩手県和賀郡古墳群	日本考古学年報6	117	東 京 都
1958	宮喜多富寿・他	青森県八戸市大字沢尻鹿島沢古墳群踏査予報	史窓9		京 都 市
1958	草 間 俊 一	先史期	盛岡市史		盛 岡 市
1959	草 間 俊 一		岩手県金ヶ崎町西根遺跡 第1次調査報告		金ヶ崎町
1959	草 間 俊 一		浮島古墳・沢口遺跡		岩 手 町
1960	伊 東 信 雄	杉山古墳群	日本考古学年報8	87	東 京 都
1960	宮喜多 富 寿	八戸市板城鹿島沢古墳群踏査略報	奥羽史苑4		
1960	小 出 末 治	上代編・古墳期	岩手県史1	345—400	盛 岡 市
1961	草 間 俊 一	岩手県西根村谷助平古墳	岩手大学文学部研究年報18	1—10	盛 岡 市
1963	伊 東 信 雄・他	五条丸古墳群	岩手県文化財調査報告書11集		盛 岡 市
1963	草 間 俊 一	岩手県岩手町浮島古墳	日本考古学年報10		東 京 都
1964	草 間 俊 一	岩手県胆沢郡西根遺跡	日本考古学年報12		東 京 都
1965	草 間 俊 一	岩手県岩手郡谷助平古墳	日本考古学年報13		東 京 都
1965	草 間 俊 一・他	岩手県福岡町畑野遺跡			二 戸 市
1966	石 井 昌 国		藤平刀 日本刀の起源に関する一考察		東 京 都
1966	氏 家 和 典・他	古墳文化の地域的特色 東北	日本の考古学IV 古墳時代上	499—528	東 京 都
1967	板 橋 源	岩手県紫波郡矢幅村エソ森	日本考古学年報15		東 京 都
1967	板 橋 源・他		南部伊達岡澤藩邸 —北上川以西の部		盛 岡 市
1967	伊 藤 玄 三	末期古墳の年代について	古代学14	217—224	京 都 市
1967	草 間 俊 一	岩手県福岡町畑野遺跡	日本考古学年報15		東 京 都
1968	伊 藤 玄 三		岩手県金ヶ崎町西根古墳と住居址		金ヶ崎町
1968	草 間 俊 一	岩手県和賀郡長沼古墳	日本考古学年報16		東 京 都
1969	板 橋 源・他		盛岡市上太田飯森古墳		盛 岡 市
1969	草 間 俊 一	岩手県水沢市見分森遺跡	日本考古学年報17		東 京 都
1970	板 橋 源		秋森周辺地域発掘調査		
1970	板 橋 源・他		盛岡市上太田飯森古墳 二報		盛 岡 市
1970	氏 家 和 典	群集墳と横穴古墳	古代の日本8 東北	65—84	東 京 都
1970	及 川 洵		角塚古墳測量調査報告書		胆 沢 町
1970	草 間 俊 一	岩手県胆沢郡西根遺跡	日本考古学年報16		東 京 都
1970	草 間 俊 一		岩手県岩手町 仙波堤・今松遺跡		岩 手 町
1972	伊 藤 玄 三	古墳文化各説 東北	新版考古学講座5 原史文化(下)	162—180	東 京 都
1974	伊 東 信 雄	土断器文化	水沢市史1	347—400	水 沢 市
1974	草 間 俊 一	上長沼古墳	日本考古学年報25	18—19	東 京 都
1974	草 間 俊 一	上長沼古墳(第2次)	日本考古学年報26		東 京 都
1974	草 間 俊 一・他		長沼古墳		和 賀 町
1975	草 間 俊 一	永井沢古墳	日本考古学年報26		東 京 都
1976	阿 部 義 平	持幣と官位制について	東北考古学の諸問題	323—344	東 京 都
1976	草 間 俊 一	先史時代	岩手町史	33—80	岩 手 町
1976	沼 山 源 喜 治	陸奥北半における末期群集墳の性格	北奥古代文化8	64—76	東 京 都
1976	林 謙 作・他		角塚古墳測量調査報告書		胆 沢 町
1978	高 橋 信 雄	糸日遺跡	主要地方遺一覽・北上線 発掘調査報告書		都 南 村
1978	林 謙 作	「五条丸古墳群」の被掘者たち	考古学研究99	39—57	岡 山 市
1979	佐 藤 和 男		百目木遺跡—発掘調査報告書一		都 南 村
1979	瀬 川 司 男		上新山遺跡発掘調査報告書		久 慈 市
1980	高 橋 文 明		江釣子遺跡群 昭和54年度発掘調査報告一		江釣子村
1980	朴 沢 正 耕	白沢遺跡	東北新幹線開通増設文化財 調査報告書V	253—356	盛 岡 市

表3. 岩手県内末期古墳関係文獻一覧(3)

発行年	編著	論文名	取録文献	収録頁	発行地
1981	伊東 信雄		宮城県史34 史料集V 考古資料		仙台市
1981	遠藤 勝博	上田面遺跡	二戸バイパス開通道路発掘調査報告書	22-244	都南村
1981	遠藤 勝博	大洞遺跡	二戸バイパス開通道路発掘調査報告書	245-330	都南村
1981	遠藤 勝博・他	長瀬D遺跡	二戸バイパス開通道路発掘調査報告書	349-414	都南村
1981	斎藤 淳	上餅田遺跡	東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書X	50-206	盛岡市
1981	佐藤 和男		西蔵渡遺跡発掘調査報告書		都南村
1981	鈴木 恵治	玉貫遺跡	金ヶ崎バイパス開通道路発掘調査報告書I	11-185	都南村
1981	鈴木 恵治	金ヶ崎町 西根遺跡	金ヶ崎バイパス開通道路発掘調査報告書I	187-320	都南村
1981	関 豊		中曾根II遺跡発掘調査報告書		二戸市
1981	高田 和徳	北館A遺跡	一戸バイパス開通埋蔵文化財調査報告書I	19-56	一戸町
1981	高田 和徳	北館B遺跡	一戸バイパス開通埋蔵文化財調査報告書I	57-132	一戸町
1981	高田 和徳	上野D遺跡	一戸バイパス開通埋蔵文化財調査報告書I	133-172	一戸町
1981	高田 和徳	田中4遺跡	一戸バイパス開通埋蔵文化財調査報告書I	199-298	一戸町
1981	高橋 義介	火行塚遺跡	二戸バイパス開通道路発掘調査報告書	331-458	都南村
1981	高橋 義介	稲村遺跡	国道4号線矢野地区改修工事関連遺跡調査報告書	15-37	都南村
1981	高橋 文明		江釣子遺跡群 昭和55年度発掘調査報告一		江釣子村
1981	高橋 文明		江釣子遺跡群 昭和55年度発掘調査報告一		江釣子村
1981	本沢 慎輔・他	長瀬C遺跡	二戸バイパス開通埋蔵文化財調査報告書II	11-347	都南村
1981	八重樫 良宏		東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書XII		盛岡市
1981	八重樫 良宏・他	今泉遺跡	東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書XI	15-132	盛岡市
1982	相原 康二	鳩岡崎遺跡	東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書XVI		盛岡市
1982	斎藤 淳		東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書XVI		盛岡市
1982	高田 和徳	一戸城跡	二戸バイパス開通埋蔵文化財調査報告書II	1冊	一戸町
1982	高橋 文明		江釣子遺跡群 昭和55年度発掘調査報告一		江釣子村
1982	高橋 与右エ門		金ヶ崎バイパス開通道路発掘調査報告書 水沢市唐性遺跡		都南村
1982	中川 重紀	大曾根遺跡	金ヶ崎バイパス開通道路発掘調査報告書III	181-242	都南村
1982	中川 重紀	竜堂遺跡	金ヶ崎バイパス開通道路発掘調査報告書III	9-30	都南村
1982	中川 重紀	東大畑遺跡	金ヶ崎バイパス開通道路発掘調査報告書III	31-180	都南村
1982	西井 謙吉		二戸バイパス開通道路発掘調査報告書		都南村
1982	西井 謙吉		一戸バイパス開通道路発掘調査報告書 二戸市長瀬B遺跡		都南村
1983	遠藤 勝博		若成田IV遺跡発掘調査報告書		都南村
1983	小平 忠孝		臥屋敷Ia遺跡発掘調査報告書		都南村
1983	佐々木 清文		上野山遺跡発掘調査報告書		都南村
1983	鈴木 優子		荒谷A遺跡発掘調査報告書		都南村
1983	高田 和徳	上野B遺跡	一戸バイパス開通埋蔵文化財調査報告書IV	173-313	一戸町
1983	高田 和徳	田中V遺跡	一戸バイパス開通埋蔵文化財調査報告書IV	113-169	一戸町
1983	古川 一明	色麻古墳群	色麻古墳群等関係遺跡群発掘調査報告書(昭和57年度)	3-148	仙台市
1984	鈴木 明美		二本木遺跡緊急発掘調査報告書		胆沢町
1984	高橋 文明		江釣子遺跡群 昭和58年度発掘調査報告一(八幡遺跡)		江釣子村
1984	高橋 与右エ門		府金橋遺跡発掘調査報告書		都南村
1984	田鎖 寿夫		小原塚遺跡発掘調査報告書		都南村
1984	田代 民義		上野山(II)遺跡発掘調査報告書		久慈市
1985	伊藤 博幸	熊野堂遺跡	水沢遺跡群発掘調査報告書(昭和59年度発掘調査報告書)		水沢市
1985	佐々木和博・他	色麻古墳群	色麻古墳群等関係遺跡群発掘調査報告書(昭和59年度発掘調査報告書)	147-149	仙台市
1985	高橋 信雄	岩手市古代集落	日高見園	249-269	北上市
1985	長 橋 至		お花山古墳群発掘調査報告書		山形市

表4. 岩手県内末期古墳関係文献一覧(4)

発行年	編 著	論 文 名	取 録 文 献	収録頁	発行地
1985	原 田 秀 文		志高城跡		盛 岡 市
1986	伊 藤 博 幸	大宇遺跡	志高城跡 昭和59年度発掘調査概報一		水 沢 市
1986	加 藤 睦	古墳時代	水沢遺跡発掘調査概報一 昭和60年度発掘調査概報		水 沢 市
1986	菊池利和・他		岩城遺跡日本考古学 別巻1	171—175	東 京 都
1986	桑 原 滋 郎	律令時代	古館II遺跡発掘調査報告書		郡 南 村
1986	千 葉 周 秋		発掘が語る日本史1 北海道東北編	180—213	東 京 都
1986	辻 秀 人	古墳時代	水口沢古墳		金ヶ崎町
1986	中 川 重 記		発掘が語る日本史1 北海道東北編	150—179	東 京 都
1986	西 野 修		万丁目遺跡発掘調査報告書		郡 南 村
1986	光 井 文 行		雄田遺跡群細分分布調査報告書 一 雄田遺跡群の発掘調査一		矢 巾 町
1986	光 井 文 行		駒境遺跡発掘調査報告書 第1分冊古代—近世編		郡 南 村
1987	光 井 文 行		秋森古墳群遺跡発掘調査報告書		郡 南 村
1987	伊 藤 博 幸	七・八世紀エミシ社会の基礎構造	岩手史学研究70	27—62	盛 岡 市
1987	桐 生 正 一		高師遺跡		滝 沢 村
1987	板 井 芳 彦		雄葛川遺跡		滝 沢 村
1987	高 橋 信 雄	岩手県における末期古墳の再検討	北奥古代文化18	1—24	東 京 都
1987	中 村 良 一		青ノ久保遺跡		郡 南 村
1987	新 沼 鐵 夫	蝦夷によって継承された鉄器文化	岩手史学研究70	63—97	盛 岡 市
1988	稲 野 祐 介		黒沢尻地区遺跡群細分分布調査報告書		北 上 市
1988	稲 野 祐 介		牡丹畑遺跡 (1988年度)		北 上 市
1988	稲 野 祐 介		藤沢遺跡 (1988年度)		北 上 市
1988	金 子 裕 之		律令期祭祀遺物集成		横 浜 市
1988	坂 川		丹後平古墳発掘調査概報		八 戸 市
1988	佐 藤 嘉 広		石田II・寺領・西荒田遺跡発掘 調査報告書		郡 南 村
1988	高 田 和 徳		上野遺跡—昭和62年度 一 発掘調査報告書		一 戸 町
1988	高 橋 文 明		江釣子村遺跡群 —昭和62年度発掘調査報告書—		江 釣 子 村
1988	藤 井 敏 明		花巻市熊倉古墳群 昭和62年度発掘調査概報		花 巻 市
1988	三 浦 謙 一		平沢I遺跡発掘調査報告書		郡 南 村
1988	國 代 民 義		中長内遺跡		久 慈 市
1989	桐 原 健		横石塚と渡来入		東 京 都
1989	齊 藤 信 次		大船遺跡群 —昭和62年度発掘調査概報一		盛 岡 市
1989	佐々木 嘉 直		源道遺跡発掘調査報告書		郡 南 村
1989	高 橋 信 雄	岩手県の末期古墳群について	シンポジウム「東日本の末期古墳」		八 戸 市
1989	高 橋 文 明		江釣子遺跡群 —昭和63年度発掘調査報告書—		江 釣 子 村
1989	高橋 与右衛門		夏本遺跡発掘調査報告書		郡 南 村
1989	玉 川 英 喜	長根I遺跡	岩手県埋蔵文化財発掘調査概報 (昭和63年度分)	201—208	郡 南 村
1989	仲 田 茂 司	陸奥国における奈良時代土師器の地域性について	歴史72	73—104	仙 台 市
1989	西 野 修	岩手県内出土「古墳時代遺物群」の集成とその年代	岩手考古学1	28—56	盛 岡 市
1989	八 戸 市 博 物 館		いにしへの東日本 古墳文化をさぐる		八 戸 市
1989	林 謙 作	北辺の古墳	古代史復元6 古墳時代の王と民衆	165—167	東 京 都
1989	藤 井 敏 明		花巻市熊倉古墳群 昭和63年度発掘調査概報		花 巻 市
1989	光 井 文 行		駒境遺跡発掘調査報告書		郡 南 村

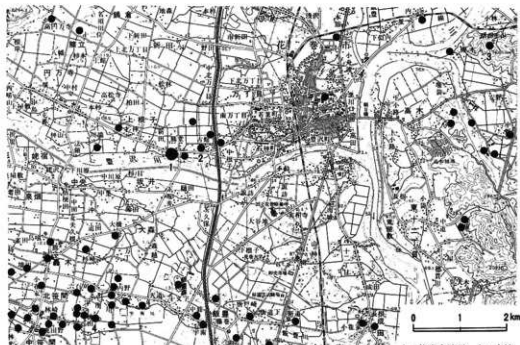
II 熊堂古墳群

1. 立地と環境

熊堂古墳群は、岩手県のほぼ中央部花巻市上根子字熊堂にある。JR 東北線花巻駅の西方 3 km、東北縦貫自動車道の西 800m の熊野神社周辺に位置する。北上川の支流で奥羽山系に源をもつ豊沢川の北岸の、標高約 95m の沖積段丘上に立地する。

古墳群の範囲は、熊野神社の東側から西方 400m 付近まで、南北には神社南側の段丘崖から県道花巻・大曲線の北側まで 50～100m の広がり、この範囲が周辺よりやや高い。この範囲内の多くは宅地化しているが、畑や果樹園・雑木林・草地になっている。宅地建設や耕作の際に副葬品が出土したといわれている。

本遺跡の周辺には、東側の沖積面に古館遺跡を始めとする古代集落遺跡が集中している。豊沢川をはさんだ南側の低位・中位台地上にも笹間館を始めとする古代から中世の遺跡が並び、北上川の東側には胡四王山遺跡などがある。しかし発掘調査の行われた遺跡は、胡四王山遺跡・古館遺跡・万丁目遺跡・笹間館遺跡等と少なく、実態の不鮮明な遺跡が大半を占める。



第 2 図 熊堂古墳群および周辺遺跡分布図

1: 熊堂古墳群, 2: 古館,
3: 胡四王山, 4: 笹間館



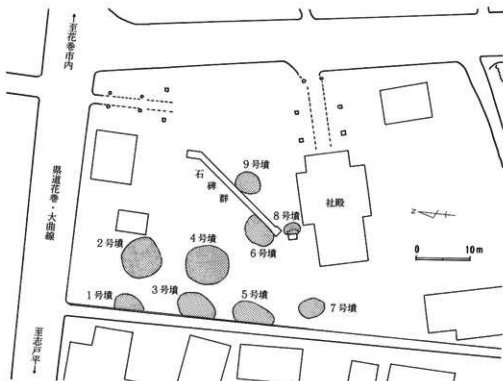
写真18：熊堂古墳群空中写真

2. 調査の概要

熊野神社の境内には明確な墳丘を残すもの2基、墳丘の一部あるいは墳丘の一部と推定されるもの6基が存在している。また、石室の石と思われる川原石の集中する箇所も何箇所が認められる。この熊野神社境内をA区とし、花巻市教育委員会の協力をえて、2年度にわたり発掘調査を行った。

熊野神社の北西のものの上中小学校跡地をB区、古墳群の西端と思われる平賀氏宅周辺をC区、A区とB区の中間の桑畑をD区とした。花巻市教育委員会では、古墳群の分布や実態を調査するために、これらの区域の発掘調査を継続して行っている。

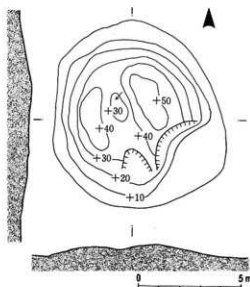
初年度は昭和61年7月28日から8月9日まで、地形測量や2号墳の発掘と復元を主に行った。2年度は昭和62年8月5～11日に行い、4号墳と6号墳・8号墳・9号墳の発掘調査を行った。2号墳・4号墳では川原石積み石室を確認した。8号墳・9号墳は川原石積み石室の底部付近の残存したものであることが明瞭になったが、6号墳は墳丘でなかった。4号墳からは、麻手刀や玉類などの遺物が出土した。



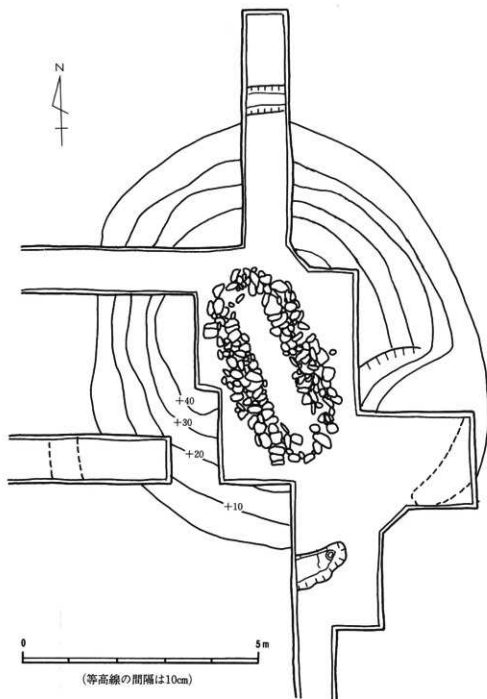
第3図 熊堂古墳群A区平面図

2号墳は、直径約9m・高さ0.5mで僅かに南北方向に長い不整形円形を呈する墳丘をもつ古墳である。頂部に盗掘による凹部、南東部にも掘削部分が見られた。

主体部は、川原石積の石室であるが、かなり攪乱されている。特に南北両端の壁付近の攪乱が著しい。石積みは、約4.3m×2.3mの南北に長い楕円形の範囲に、細長い川原石を小口積みに構築して約3.3m×0.6mの幅の狭い長方形の主体部を作り出している。主軸はN-30-Wを示す。側面には、西壁で3個、東壁で1個の直立した石が認められる。本来は片側4個ずつの支石があったと考えられる。床面は攪乱が著しく明確でない。



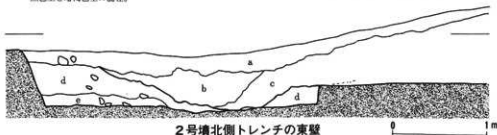
第4図 2号墳墳丘実測図(I)



第5図 2号墳墳丘実測図(2)



a : 表土やや暗い暗褐色土であり、非常に柔らかく草木の根が多い。b : a層と黒土の混じった層であり、柔らかい暗褐色土。c : 黒色土、周溝の上部にのる黒色土であり、周溝周辺部にのみみられる層である。中位部に粉状バミスのブロック層在。d : 暗褐色土。b層に比べやや黄味が強くしまっている。e : 暗褐色土、d層に近い層である。墳丘部の土と思われるやや柔らかい。f : 暗黄褐色土、やや硬い。g : f層に比べやや黄褐色が強い。h : 黒色土と暗褐色土の混在。



a : 表土。b : 黒色土（黒味強く、あまり固くない）。c : 黒色土を主体としやや砂質粘土が入るが、全体的にやわらかく、d層ほど粘土ブロックは目立たない。d : 黒色土中に黄褐色砂質粘土のブロックを含む。e : 暗褐色土の砂質粘土を主とし、黒色土の汚水が目立つ、☆砂礫が多く基盤の砂質粘土層・礫層との漸移層。

第6図 トレンチ壁面図

周溝は立木の関係で一部しか調査できなかったが、主軸の延長線の南側で切れることが確認された。

出土遺物は検出されなかった。

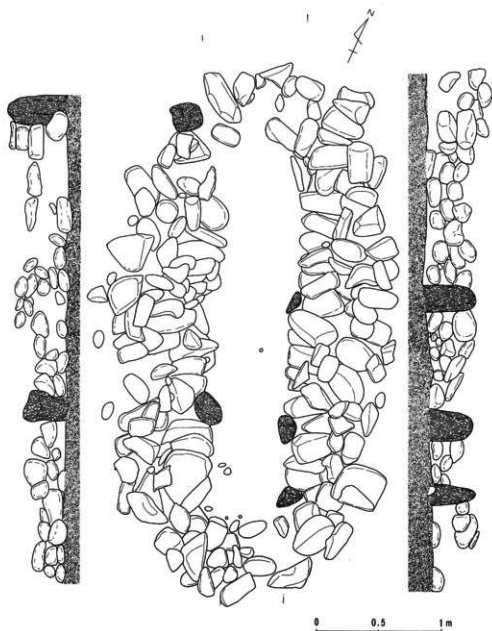
調査の終了後、周辺の川原石を使用し、盗掘により破損していた壁を修復し、石室を復元した。



写真19：2号墳石室検出状況



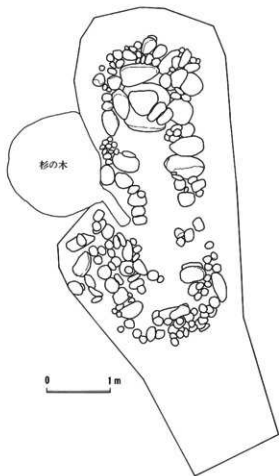
写真20：2号墳石室復元状態



第7图 2号填石室实测图

4号墳は、2号墳の南側に位置し、明確な墳丘を残していた。直径約9m・高さ0.5mで、南北方向にやや長い円形の墳丘をもつ古墳である。頂部に盗掘によると思われる凹地が見られた。

主体部は、川原石積みの石室で、中央部から南側は破損を受けている。細長い川原石を小口積みにし、約4.7m×1mの幅の狭い長方形の主体部を作り出している。主軸はほぼN-S方向を示す。側面には東壁で3個、西壁で2個の直立した石が認められる。西壁の一部は木根の圧力で破損しているの、本来は片側3個ずつの支石があったと考えられる。中央から北側の石は、内側に張り出すアーチ状に石が積まれ、最上部に約1.2mの大きな石が渡してある。南側の端には平たい石が直立している。床面は平坦に整地されており、仕切り石はない。段丘堆積物と思われるが、北端50cmは円礫、その南は玉砂利である。



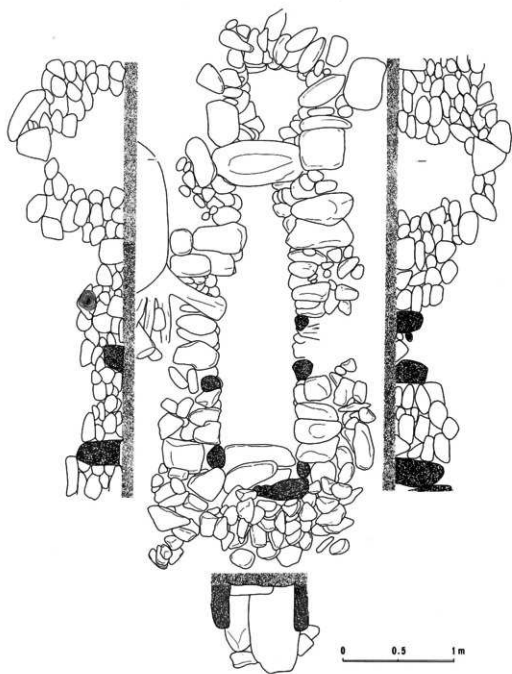
第8図 4号墳発掘範囲



写真21：4号墳発掘状況



写真22：4号墳石室検出状況
(北から)



第9图 4号填石室实测图

周塲は時間的都合で確認できなかった。少なくとも南側には無いようである。

出土遺物は床面付近から検出された。天井石の下位から蔵手刀が、その南側から玉類や直刀・刀子が検出された。蔵手刀は、柄が石室の北壁に接し、切先が東壁際の中央に向かい斜めに配置していた。直刀は蔵手刀の南約50cmの東壁際に配置していた。玉類は直刀の周辺から蔵手刀の周辺にかけて検出された。この付近には太い木根があり、盗掘も床面まで及ばなかったものと思われる。また天井石もかなり大きく、重量もあり、それが幸いしていたようである。



写真23：4号墳石室検出状況(南から)

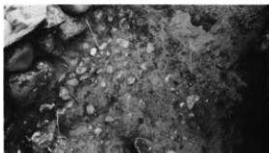
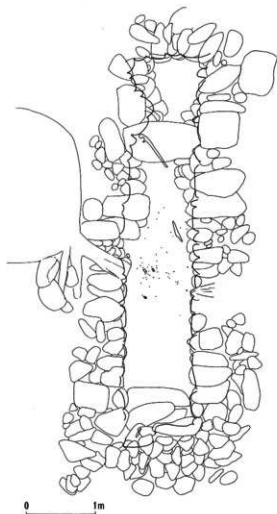


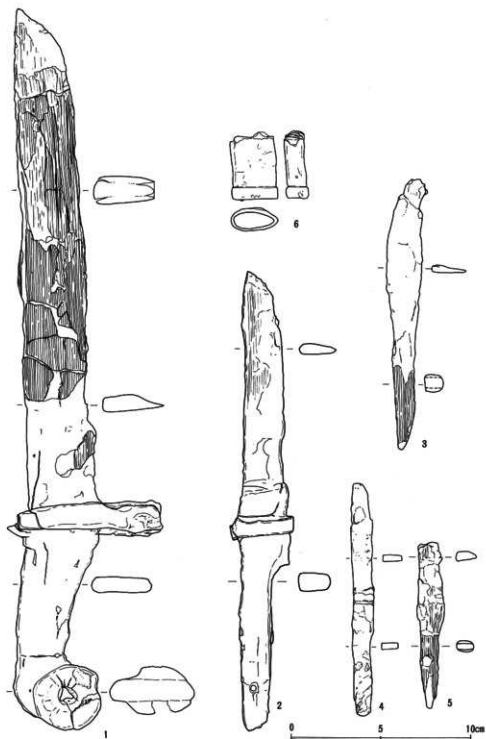
写真24：4号墳遺物出土状況(1)



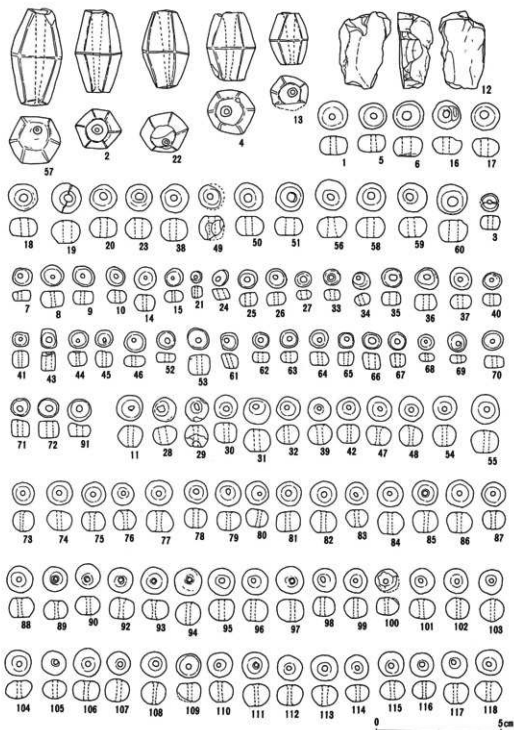
写真25：4号墳遺物出土状況(2)



第10図 4号墳遺物出土分布



第11图 4号墳出土刀剣類実測図



第12图 4号出土玉类实测图

6号墳

6号墳は、石碑群の南西端にあり、墳丘の一部らしい高まりがあった。しかし、発掘の結果、後世の擾乱が著しく性格は不明であった。盛り土は新しく、古墳の墳丘でないことは明らかである。

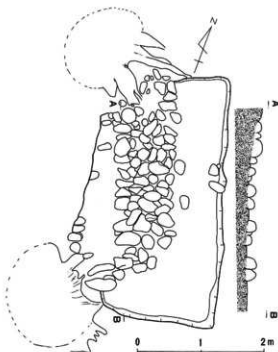
8号墳

8号墳は石碑群の東側の神社の広場にある。墳丘は、削平され残っていない。主体部の床面とそれを取り囲む積み石が検出された。

主体部は長軸2.5m以上、短軸0.5mの細長い長方形で、細長い川原石を周囲に配置している。西側と北側は石碑群の基礎の下位に続いている。本来は、小口積みされていて、神社境内の広場を整地するときに殆どの石が取り去られてしまったようである。

周溝も底部まで削平されたらしく、検出できなかった。

出土遺物はない。



第13図 8号墳実測図



写真26: 8号墳検出状況



写真27: 8号墳石室検出状況

9号墳

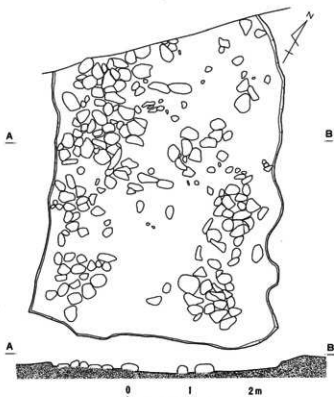
9号墳も石碑群の東側の神社の広場にある。墳丘は、削平されて残っていない。主体部の床面とそれを取り囲む積み石が検出された。

主体部は4m×1.2mの細長い長方形で、南側を除く3辺には細長い川原石が配置されている。北西は石碑群の基礎の下位に続く。本来は小口積みされていて、広場の整地の際ほとんどの石が取り除かれたようである。床面はほぼ平坦で、細長い石が1.5m間隔で横に2個ずつ並べられている。仕切り石かもしれない。

周溝も底部まで削平されたらしく、検出できなかった。

出土遺物はない。

神社の広場には、8号墳・9号墳以外にも礎群が、社務所の近くなどに見られる。これらの痕跡から、かなり密集した古墳群だったと想像される。



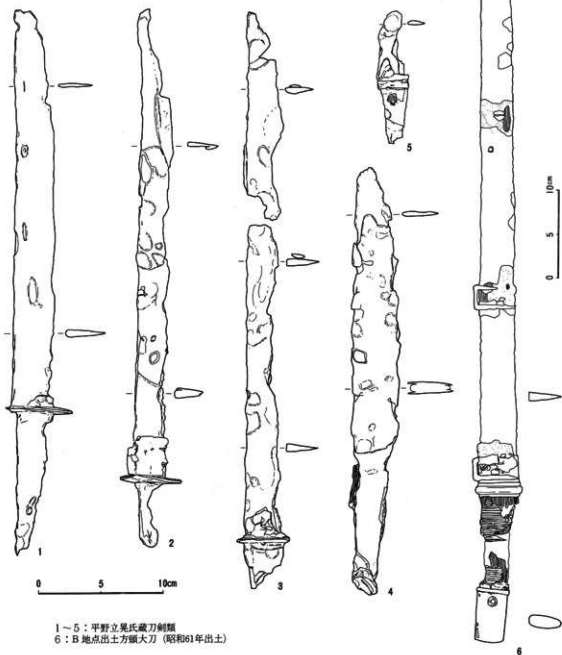
第14図 9号墳実測図



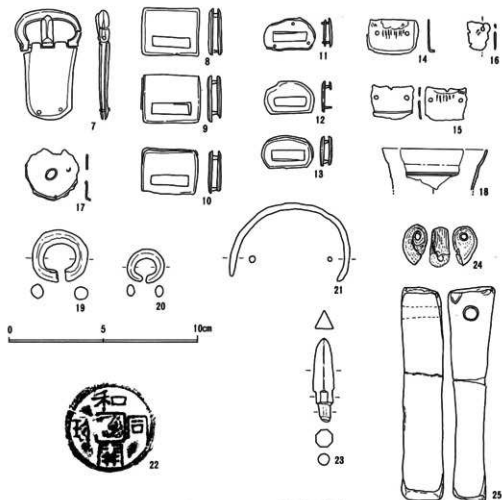
写真28：9号墳石室検出状況

参考品（平野コレクション）

熊堂古墳群から出土したと伝えられている遺物のうち、平野立見氏蔵の資料（当館借受品）と花巻市教育委員会B地区で発掘した資料を参考品として載せた。写真6～13・15・16、第25、26図



第15図 熊堂古墳群出土刀剣類実測図
 (花巻市教育委員会調査資料)



第16図 熊堂古墳群出土遺物実測図 (平野コレクション)

1～5と7～25は平野コレクション、6はB地区出土品である。

1～3は直刀、6は万頭太刀である。4・5は劣化が激しく残存状態が良くないが、直刀と思われる。7～17は鈎帯金具で、7は鉸具、8～10は巡方、11～13丸柄、14～16は帯先金具で何れも銅製である。18は銅製の腕の破片である。19・20は銀環である。21は銅線で腐食し、緑青に覆われている。環状の製品だったかも知れない。22は銅製の和同開珎である。23は銅製の三角鏡である。本資料は、小笠原逐宮などの紹介記事には記載されず、型的にも類例を指摘できないことから、本古墳群出土資料とする根拠は希薄である。24はガラスで、勾玉状に加工された破損品である。25は砥石で、一端に紐通し用の穴が開いている。

図版・写真には載せなかったが、平野コレクションの中には琥珀玉の破片も含まれている。
各遺物の計測値は別表にした。(佐々木)

表5. 熊堂古墳群 4号墳出土刀剣類計測表

番 出 土 古 墳	号 資 料 番 号	全	刃	茎	元	先	重	鋒	銛	銛	全	反	区
		長	長	長	幅	幅	ね	長	長	ね	り	り	
4号墳	11-1	40.1	27.9	11.2	4.0	2.8	0.9	2.8	8.6	1.8	0.8	—	無
4号墳	11-2	25.6	16.3	9.3	2.6	1.7	0.6	2.0	3.6	1.1	—	—	片
4号墳	11-3	(15.0)	(6.2)	8.8	1.8	—	0.4	—	—	—	—	—	無
4号墳	11-4	(13.0)	(8.3)	4.7	1.1	—	0.4	—	—	—	—	—	片
4号墳	11-5	(9.3)	(4.0)	5.3	1.5	—	0.6	—	—	—	—	—	片?

表6. 熊堂古墳群出土刀剣計測表

番 出 土 古 墳	号 資 料 番 号	全	刃	茎	元	先	重	鋒	銛	銛	全	反	区
		長	長	長	幅	幅	ね	長	長	ね	り	り	
不 明	15-1	(44.0)	(32.5)	(11.5)	3.5	2.2	0.6	—	5.5	0.6	—	—	片
不 明	15-2	(43.3)	(38.2)	(5.1)	2.4	—	0.8	—	4.9	0.5	—	—	片?
不 明	15-3	(46.5)	(42.8)	(3.7)	3.0	—	0.7	—	4.2	0.7	—	—	無?
不 明	15-4	(34.3)	(22.8)	(11.5)	3.8	—	0.8	—	—	—	—	—	片?
不 明	15-5	(10.7)	(6.2)	(4.5)	2.0	—	0.5	—	2.5	0.7	—	—	無?
B 区	15-6	83.7	66.7	17.0	4.0	2.5	1.0	4.0	4.8	1.2	0.9	—	無?

表7. 熊堂古墳群 4号墳出土玉類計測表 (単位: mm)

N _o	種 別	径・長	幅・高	厚	色	備 考	N _o	種 別	径・長	幅・高	厚	色	備 考
2	切子玉	16.5	18.5	34.8	白	未製品	7	ガラス玉	7.2	7.6	4.3	紺	
4	切子玉	17.4	18.7	22.0	白		8	ガラス玉	7.8	8.6	6.5	紺	
13	切子玉	11.6	14.5	21.4	白		9	ガラス玉	8.2	8.4	5.7	紺	
22	切子玉	16.4	18.9	31.2	白		10	ガラス玉	7.8	8.0	4.9	紺	
57	切子玉	19.4	20.8	38.6	白		14	ガラス玉	8.5	8.9	6.7	紺	
12	玉 髓	31.1	16.5	12.3	白		15	ガラス玉	7.3	7.7	5.0	紺	
1	ガラス玉	11.1	11.4	8.2	紺		21	ガラス玉	5.5	5.8	4.9	水色	
5	ガラス玉	11.0	11.1	8.0	紺		24	ガラス玉	6.6	7.5	3.5	青	
6	ガラス玉	12.2	12.5	8.8	紺		25	ガラス玉	7.7	7.9	6.2	青	
16	ガラス玉	11.1	11.5	6.3	紺		26	ガラス玉	7.7	8.0	5.4	青	
17	ガラス玉	11.3	11.5	7.8	紺		27	ガラス玉	6.8	6.9	3.8	青	
18	ガラス玉	10.8	11.3	8.1	紺		33	ガラス玉	6.7	7.1	4.0	水色	
19	ガラス玉	11.7	12.0	8.9	紺		34	ガラス玉	7.2	7.4	4.3	紺	
20	ガラス玉	11.0	11.5	8.3	紺		35	ガラス玉	8.1	8.4	4.9	紺	
23	ガラス玉	10.6	11.0	8.7	紺		36	ガラス玉	7.9	9.4	7.0	紺	
38	ガラス玉	11.3	11.9	9.2	紺		37	ガラス玉	8.2	8.8	5.8	紺	
50	ガラス玉	11.3	11.8	8.3	紺		40	ガラス玉	7.0	7.7	5.1	紺	
51	ガラス玉	11.4	11.4	6.7	紺		41	ガラス玉	5.1	7.2	6.2	紺	
56	ガラス玉	12.4	12.5	8.5	紺		43	ガラス玉	6.6	7.4	7.3	紺	
58	ガラス玉	11.4	11.8	8.7	紺		44	ガラス玉	7.0	7.6	5.4	紺	
59	ガラス玉	11.3	11.5	9.1	紺		45	ガラス玉	6.2	7.1	6.2	紺	
60	ガラス玉	11.5	12.0	8.0	紺		46	ガラス玉	7.0	7.4	5.3	紺	

No	種 別	径・長	幅・高	厚	色	備 考	No	種 別	径・長	幅・高	厚	色	備 考
49	ガラス玉				紺	破損品	83	土 玉	9.0	9.1	7.2	灰	
52	ガラス玉	8.0	8.1	3.8	紺		84	土 玉	10.3	10.6	9.1	灰	
53	ガラス玉	7.9	8.7	7.0	紺		85	土 玉	10.6	10.6	9.1	灰	
61	ガラス玉	7.4	7.6	6.6	紺		86	土 玉	10.4	10.5	8.4	灰	
62	ガラス玉	6.8	7.4	4.7	青		87	土 玉	9.9	10.9	8.6	灰	
63	ガラス玉	6.6	7.4	4.8	紺		88	土 玉	10.5	10.5	8.8	灰	
64	ガラス玉	7.0	7.2	5.4	紺		89	土 玉	10.1	10.2	8.9	灰	
65	ガラス玉	6.6	6.7	5.5	紺		90	土 玉	9.7	10.0	8.2	灰	
66	ガラス玉	6.1	7.3	6.2	紺		92	土 玉	9.7	9.9	8.5	灰	
67	ガラス玉	6.9	7.2	6.1	紺		93	土 玉	10.1	10.9	8.4	赤褐	
68	ガラス玉	6.5	6.6	3.9	紺		94	土 玉	10.9	11.0	9.8	灰	
69	ガラス玉	7.2	7.6	4.0	紺		95	土 玉	11.0	10.9	8.8	灰	
70	ガラス玉	8.0	8.9	6.2	紺		96	土 玉	10.0	10.0	8.8	灰	
71	ガラス玉	7.0	8.0	8.2	紺		97	土 玉	10.1	11.0	8.2	灰	
72	ガラス玉	8.2	9.0	6.2	紺		98	土 玉	9.4	9.7	7.5	灰	
91	ガラス玉	8.4	9.0	5.6	紺		99	土 玉	9.8	9.8	8.9	茶褐	
11	土 玉	10.2	10.5	8.9	灰		100	土 玉	9.5	10.0	7.8	灰	
29	土 玉	9.5	10.2	8.6	灰		101	土 玉	9.9	10.1	8.3	灰	
30	土 玉	9.3	9.8	6.9	灰		102	土 玉	10.0	10.0	8.0	灰	
31	土 玉	10.5	11.1	9.0	灰		103	土 玉	9.9	10.2	9.0	灰	
32	土 玉	9.1	9.5	8.2	灰		104	土 玉	10.3	10.5	7.4	灰	
47	土 玉	9.8	10.1	7.6	灰		105	土 玉	9.9	10.0	8.9	灰	
48	土 玉	9.3	9.8	7.9	灰		106	土 玉	10.8	11.2	8.6	灰	
54	土 玉	9.1	9.9	8.1	灰		107	土 玉	9.3	9.7	8.3	灰	
55	土 玉	10.6	11.0	8.6	灰		108	土 玉	10.3	10.4	8.4	灰	
73	土 玉	9.4	9.6	8.6	灰		109	土 玉	10.0	10.3	7.8	灰	
74	土 玉	10.0	10.4	8.3	灰		110	土 玉	10.0	10.1	7.9	灰	
75	土 玉	9.2	9.6	8.0	灰		111	土 玉	10.5	10.5	8.8	灰	
76	土 玉	9.1	9.4	8.4	灰		112	土 玉	10.1	10.2	8.5	灰	
77	土 玉	10.7	11.0	8.6	灰		113	土 玉	10.4	10.7	8.6	灰	
78	土 玉	9.3	9.4	8.2	灰		114	土 玉	9.7	9.9	7.2	灰	
79	土 玉	9.6	10.0	8.4	灰		115	土 玉	10.0	10.1	7.4	灰	
80	土 玉	9.6	9.8	7.8	灰		116	土 玉	8.6	9.0	6.6	灰	
81	土 玉	10.4	10.5	8.8	灰		117	土 玉	10.2	10.5	8.9	灰	
82	土 玉	10.3	10.6	8.8	灰		118	土 玉	10.3	10.5	8.4	灰	

表8. 熊堂古墳群出土土玉類計測表(平野コレクション)(1) (単位: mm)

No	種 別	径・長	幅・高	厚	色	備 考	No	種 別	径・長	幅・高	厚	色	備 考
1	切子 玉	20.7		34.2	白		12	ガラス玉	4.8		3.5	青	
2	切子 玉	15.8		24.0	白		13	ガラス玉	4.2		2.8	青	
3	切子 玉	14.4		18.8	白		14	ガラス玉	4.2		2.8	青	
4	勾 玉	30.0	17.0	10.1	褐		15	ガラス玉	4.2		2.8	青	
5	ガラス玉	13.9		9.6	青		16	ガラス玉	3.7		3.0	青	
6	ガラス玉	7.6		4.7	青		17	ガラス玉	3.8		2.0	青	
7	ガラス玉	8.4		4.0	青		18	ガラス玉	4.0		2.5	青	
8	ガラス玉	5.0		6.6	青		19	ガラス玉	4.4		3.5	青	
9	ガラス玉	5.7		4.8	青		20	ガラス玉	3.7		2.3	青	
10	ガラス玉	5.2		4.9	青		21	ガラス玉	4.3		2.2	青	
11	ガラス玉	4.8		3.4	青		22	ガラス玉	4.0		2.4	青	

No.	種 別	径・長	幅・高	厚	色	備 考	No.	種 別	径・長	幅・高	厚	色	備 考
23	ガラス玉	3.9		2.9	青		72	ガラス玉	4.2		2.2	青	
24	ガラス玉	3.5		2.0	青		73	ガラス玉	4.0		2.2	青	
25	ガラス玉	4.0		2.5	青		74	ガラス玉	3.8		2.0	青	
26	ガラス玉	3.6		1.7	青		75	ガラス玉	3.6		1.9	青	
27	ガラス玉	3.8		2.0	青		76	ガラス玉	3.6		2.0	青	
28	ガラス玉	3.8		2.0	青		77	ガラス玉	4.0		2.0	青	
29	ガラス玉	3.6		2.3	青		78	ガラス玉	3.7		2.0	青	
30	ガラス玉	3.9		2.2	青		79	ガラス玉	3.9		1.9	青	
31	ガラス玉	4.0		2.3	青		80	ガラス玉	3.8		1.7	青	
32	ガラス玉	3.5		1.8	青		81	ガラス玉	3.8		1.7	青	
33	ガラス玉	3.7		2.2	青		82	ガラス玉	3.9		2.0	青	
34	ガラス玉	3.6		2.6	青		83	ガラス玉	3.6		2.0	青	
35	ガラス玉	3.6		2.0	青		84	ガラス玉	3.6		1.7	青	
36	ガラス玉	3.9		1.8	青		85	ガラス玉	4.0		1.8	青	
37	ガラス玉	4.3		2.8	青		86	ガラス玉	3.7		1.9	青	
38	ガラス玉	4.0		2.8	青		87	ガラス玉	3.7		2.0	青	
39	ガラス玉	4.4		2.5	青		88	土 玉	12.7		10.2	灰	
40	ガラス玉	3.6		2.3	青		89	土 玉	10.7		8.9	灰	
41	ガラス玉	3.7		2.4	青		90	土 玉	9.8		8.5	灰	
42	ガラス玉	4.0		3.3	青		91	土 玉	8.9		7.3	灰	
43	ガラス玉	3.8		3.0	青		92	土 玉	9.7		7.5	灰	
44	ガラス玉	4.0		3.2	青		93	土 玉	10.6		9.2	灰	
45	ガラス玉	3.9		2.2	青		94	土 玉	8.6		6.4	灰	
46	ガラス玉	4.2		2.3	青		95	土 玉	8.7		7.3	灰	
47	ガラス玉	3.7		1.8	青		96	土 玉	7.1		6.1	灰	
48	ガラス玉	3.8		2.5	青		97	土 玉	7.8		6.5	灰	
49	ガラス玉	4.0		2.5	青		98	土 玉	8.2		7.0	灰	
50	ガラス玉	3.7		1.7	青		99	土 玉	8.4		6.8	灰	
51	ガラス玉	3.4		1.7	青		100	土 玉	8.0		7.0	灰	
52	ガラス玉	3.9		2.4	青		101	土 玉	9.7		8.4	灰	
53	ガラス玉	3.9		2.3	青		102	土 玉	7.9		7.2	灰	
54	ガラス玉	3.8		2.3	青		103	土 玉	8.9		7.5	灰	
55	ガラス玉	4.3		2.6	青		104	土 玉	6.9		5.9	灰	
56	ガラス玉	4.0		2.6	青		105	土 玉	7.7		6.2	灰	
57	ガラス玉	4.0		2.0	青		106	土 玉	9.8		7.9	灰	
58	ガラス玉	3.8		2.4	青		107	土 玉	10.8		9.6	灰	
59	ガラス玉	4.7		2.3	青		108	土 玉	9.4		7.9	灰	
60	ガラス玉	3.8		2.0	青		109	土 玉	10.2		8.9	灰	
61	ガラス玉	4.0		2.6	青		110	土 玉	10.3		9.2	灰	
62	ガラス玉	3.9		2.4	青		111	土 玉	10.0		8.0	灰	
63	ガラス玉	4.0		3.0	青		112	切 子 玉	21.2		31.4	灰 白	
64	ガラス玉	4.2		2.8	青		113	切 子 玉	16.1		25.2	白	
65	ガラス玉	3.5		2.0	青		114	ガラス玉	3.4		2.0	青	
66	ガラス玉	4.1		2.6	青		115	ガラス玉	4.0		2.8	青	
67	ガラス玉	4.0		2.6	青		116	ガラス玉	3.8		1.9	青	
68	ガラス玉	3.4		2.0	青		117	ガラス玉	4.0		2.1	青	
69	ガラス玉	4.0		2.3	青		118	ガラス玉	4.0		2.6	青	
70	ガラス玉	4.2		2.4	青		119	ガラス玉	4.0		2.4	青	
71	ガラス玉	4.0		2.5	青		120	ガラス玉	3.7		1.9	青	

No	種別	径・長	幅・高	厚	色	備考	No	種別	径・長	幅・高	厚	色	備考
121	ガラス玉	7.3		6.2	青		147	ガラス玉	4.0		2.4	青	
122	ガラス玉	8.0		7.0	青		148	ガラス玉	3.9		2.3	青	
123	ガラス玉	6.5		3.5	青		149	ガラス玉	4.0		2.6	青	
124	ガラス玉	6.7		5.4	青		150	ガラス玉	4.3		2.5	青	
125	ガラス玉	7.2		5.0	青		151	ガラス玉	4.3		2.5	青	
126	ガラス玉	7.0		3.2	青		152	ガラス玉	3.8		2.0	青	
127	ガラス玉	6.6		3.7	青		153	ガラス玉	4.2		2.4	青	
128	ガラス玉	6.0		5.8	青		154	ガラス玉	4.0		2.3	青	
129	ガラス玉	6.4		4.0	青		155	ガラス玉	3.8		2.0	青	
130	ガラス玉	4.8		3.2	青		156	ガラス玉	3.6		2.0	青	
131	ガラス玉	6.5		2.9	青		157	ガラス玉	4.0		2.6	青	
132	ガラス玉	8.2		4.8	青		158	ガラス玉	3.9		2.2	青	
133	ガラス玉	4.9		2.9	青		159	ガラス玉	5.0		3.5	青	
134	ガラス玉	4.8		3.0	青		160	ガラス玉	4.0		2.0	青	
135	ガラス玉	4.2		2.6	青		161	ガラス玉	4.5		3.0	青	
136	ガラス玉	3.9		2.3	青		162	ガラス玉	3.8		2.0	青	
137	ガラス玉	3.8		3.4	青		163	ガラス玉	3.9		2.6	青	
138	ガラス玉	4.1		2.7	青		164	ガラス玉	4.3		2.3	青	
139	ガラス玉	3.9		2.0	青		165	ガラス玉	4.3		2.7	青	
140	ガラス玉	3.9		2.7	青		166	ガラス玉	4.0		2.3	青	
141	ガラス玉	4.8		2.9	青		167	ガラス玉	3.2		2.8	青	
142	ガラス玉	4.8		3.0	青		168	ガラス玉	3.7		2.4	青	
143	ガラス玉	3.9		2.9	青		169	ガラス玉	4.2		3.0	青	
144	ガラス玉	4.4		2.5	青		170	ガラス玉	3.8		2.5	青	
145	ガラス玉	4.3		2.5	青		171	ガラス玉	3.8		2.7	青	
146	ガラス玉	4.4		2.9	青		172	ガラス玉	3.7		2.8	青	

表9. 熊堂古墳群出土土類計測表(平野コレクション)(2) (単位: mm)

No	種別	径・長	幅・高	厚	色	備考	No	種別	径・長	幅・高	厚	色	備考
173	ガラス玉	3.5		2.0	青		193	ガラス玉	3.8		1.8	青	
174	ガラス玉	3.6		2.0	青		194	ガラス玉	4.3		2.6	青	
175	ガラス玉	4.0		3.0	青		195	ガラス玉	3.9		2.1	青	
176	ガラス玉	3.8		2.4	青		196	ガラス玉	4.3		2.3	青	
177	ガラス玉	4.2		2.5	青		197	ガラス玉	3.7		2.6	青	
178	ガラス玉	3.9		2.2	青		198	ガラス玉	3.8		2.0	青	
179	ガラス玉	4.3		2.4	青		199	ガラス玉	3.6		2.4	青	
180	ガラス玉	3.4		2.0	青		200	ガラス玉	4.0		2.3	青	
181	ガラス玉	3.8		1.9	青		201	ガラス玉	4.0		2.9	青	
182	ガラス玉	4.2		2.3	青		202	ガラス玉	3.8		2.0	青	
183	ガラス玉	4.0		2.2	青		203	ガラス玉	3.8		2.6	青	
184	ガラス玉	3.8		1.9	青		204	ガラス玉	3.9		2.7	青	
185	ガラス玉	3.5		3.2	青		205	ガラス玉	3.8		2.7	青	
186	ガラス玉	3.9		2.2	青		206	ガラス玉	4.2		2.5	青	
187	ガラス玉	4.1		2.7	青		207	ガラス玉	3.6		2.0	青	
188	ガラス玉	3.8		1.9	青		208	ガラス玉	3.5		2.3	青	
189	ガラス玉	3.6		2.6	青		209	ガラス玉	4.0		1.9	青	
190	ガラス玉	3.3		2.4	青		210	ガラス玉	3.9		1.9	青	
191	ガラス玉	3.6		2.0	青		211	ガラス玉	4.1		4.0	青	
192	ガラス玉	3.8		2.4	青		212	ガラス玉	3.8		1.9	青	

No	種 別	径・長	幅・高	厚	色	備 考	No	種 別	径・長	幅・高	厚	色	備 考
213	ガラス玉	3.8		2.8	青		262	ガラス玉	3.7		2.5	青	
214	ガラス玉	3.6		2.2	青		263	ガラス玉	3.5		1.9	青	
215	ガラス玉	3.7		2.2	青		264	ガラス玉	4.5		3.7	青	
216	切子玉	28.3		16.6	白		265	ガラス玉	3.7		1.5	青	
217	切子玉	20.2		13.4	白		266	ガラス玉	3.5		2.3	青	
218	切子玉	12.2		15.0	白		267	ガラス玉	5.0		3.0	青	
219	ガラス玉	7.9		7.3	青		268	ガラス玉	3.6		2.5	青	
220	ガラス玉	7.7		8.4	青		269	ガラス玉	3.5		2.3	青	
221	ガラス玉	7.7		6.2	青		270	ガラス玉	3.8		2.2	青	
222	ガラス玉	8.0		5.5	青		271	ガラス玉	4.0		2.2	青	
223	ガラス玉	7.7		6.2	青		272	ガラス玉	4.0		2.3	青	
224	ガラス玉	6.5		5.3	青		273	ガラス玉	3.6		2.5	青	
225	ガラス玉	6.2		3.7	青		274	ガラス玉	3.1		2.3	青	
226	ガラス玉	5.6		3.2	青		275	ガラス玉	4.0		3.0	青	
227	ガラス玉	4.1		2.8	青		276	ガラス玉	3.8		2.4	青	
228	ガラス玉	4.0		2.5	青		277	ガラス玉	4.0		2.0	青	
229	ガラス玉	4.0		2.8	青		278	ガラス玉	4.0		3.0	青	
230	ガラス玉	4.7		3.1	青		279	ガラス玉	4.0		2.0	青	
231	ガラス玉	3.6		2.6	青		280	ガラス玉	3.7		2.0	青	
232	ガラス玉	4.0		2.8	青		281	ガラス玉	4.9		2.3	青	
233	ガラス玉	3.7		2.4	青		282	ガラス玉	3.6		2.0	青	
234	ガラス玉	3.7		2.0	青		283	ガラス玉	3.7		2.0	青	
235	ガラス玉	3.9		2.2	青		284	ガラス玉	3.6		2.2	青	
236	ガラス玉	3.8		2.2	青		285	ガラス玉	3.8		2.0	青	
237	ガラス玉	3.8		2.2	青		286	ガラス玉	3.4		2.0	青	
238	ガラス玉	4.0		2.3	青		287	ガラス玉	3.7		2.0	青	
239	ガラス玉	4.0		2.4	青		288	ガラス玉	13.2		9.8	青	
240	ガラス玉	4.1		3.7	青		289	ガラス玉	12.7		9.0	青	
241	ガラス玉	3.8		2.1	青		290	ガラス玉	11.5		7.8	青	
242	ガラス玉	3.8		2.2	青		291	ガラス玉	7.8		6.0	青	
243	ガラス玉	3.9		2.8	青		292	ガラス玉	6.2		5.6	青	
244	ガラス玉	4.7		3.4	青		293	ガラス玉	6.7		3.6	青	
245	ガラス玉	4.6		2.9	青		294	ガラス玉	6.2		4.0	青	
246	ガラス玉	5.5		2.9	青		295	ガラス玉	3.4		2.1	青	
247	ガラス玉	4.2		2.2	青		296	ガラス玉	6.0		5.0	青	
248	ガラス玉	3.6		2.4	青		297	勾玉	13.0	4.5	9.5	褐	
249	ガラス玉	3.6		2.2	青		298	勾玉	11.6	10.8	4.3	灰	
250	ガラス玉	4.0		2.3	青		299	土玉	13.4		10.2	灰	
251	ガラス玉	4.2		2.6	青		300	土玉	8.1		5.1	灰	
252	ガラス玉	3.8		2.6	青		301	勾玉	37.5	21.3	10.1	緑	
253	ガラス玉	3.3		1.6	青		302	勾玉	30.5	21.0	12.6	緑	
254	ガラス玉	3.5		2.0	青		303	勾玉	35.2	19.8	10.1	緑	
255	ガラス玉	4.0		2.2	青		304	勾玉	30.1	18.3	8.7	茶	
256	ガラス玉	4.0		2.1	青		305	勾玉	35.6	19.0	10.2	アメ色	
257	ガラス玉	4.0		2.0	青		306	勾玉	36.7	21.0	10.3	アメ色	
258	ガラス玉	4.5		2.3	青		307	勾玉	35.3	19.8	12.1	アメ色	
259	ガラス玉	3.6		1.8	青		308	勾玉	36.0	20.9	10.0	アメ色	
260	ガラス玉	4.0		2.1	青		309	勾玉	36.9	19.1	10.8	アメ色	
261	ガラス玉	4.0		2.4	青		310	勾玉	32.4	17.2	8.9	アメ色	

No	種別	径・長	幅・高	厚	色	備考	No	種別	径・長	幅・高	厚	色	備考
311	勾玉	29.1	18.2	9.0	アメ色		329	勾玉	16.2	6.1	4.7	茶	
312	勾玉	28.7	14.5	8.0	アメ色		330	切子玉	26.4	19.4	17.1	白	
313	勾玉	29.2	7.4	8.8	アメ色		331	切子玉	31.2	17.2	16.4	白	
314	勾玉	26.3	14.2	9.7	アメ色		332	切子玉	28.2	16.0	13.3	白	
315	勾玉	29.1	17.6	8.1	アメ色		333	切子玉	20.4	14.1	13.8	白	
316	勾玉	28.1	16.8	7.2	アメ色		334	切子玉	24.3	15.5	14.8	白	
317	勾玉	40.8	23.3	10.4	アメ色		335	切子玉	24.2	14.2	13.6	白	
318	勾玉	35.2	21.1	10.2	アメ色		336	切子玉	24.5	14.2	15.5	白	
319	勾玉	34.3	20.8	10.3	黄		337	切子玉	29.7	19.3	18.8	白	
320	勾玉	35.5	19.4	7.9	アメ色		338	切子玉	23.3	13.2	12.6	白	
321	勾玉	28.6	16.8	8.8	アメ色		339	切子玉	21.0	14.3	14.0	白	
322	勾玉	35.3	18.9	9.9	アメ色		340	切子玉	19.3	14.3	13.3	白	
323	勾玉	32.0	19.2	10.0	アメ色		341	切子玉	13.9	10.4	11.2	白	
324	勾玉	32.2	16.3	9.7	灰		342	切子玉	16.8	10.8	11.4	白	
325	勾玉	26.5	18.2	8.6	灰		343	切子玉	18.2	12.8	12.0	白	
327	勾玉	13.7	7.6	4.1	青		344	切子玉	20.6	14.2	14.8	白	
328	勾玉	14.8	8.2	4.0	茶		345	切子玉	21.4	15.0	14.5	白	

表10. 熊堂古墳群出土土類計測表(平野コレクション)(3) (単位: mm)

No	種別	径・長	幅・高	厚	色	備考	No	種別	径・長	幅・高	厚	色	備考
346	切子玉	24.6	17.3	16.5	白		375	ガラス玉	12.7	12.4	10.4	青	
247	切子玉	38.2	19.5	21.4	白		376	土玉	10.9	10.5	9.9	黒褐	
248	切子玉	27.7	20.3	20.1	白		377	土玉	9.5	9.5	7.9	黒褐	
349	切子玉	25.0	17.8	16.7	白		378	土玉	8.2	7.9	8.7	黒褐	
350	切子玉	25.9	17.2	16.2	白		379	ガラス玉	8.1	7.6	6.7	青	
351	切子玉	23.9	24.9	25.3	白		380	土玉	9.3	9.1	8.7	黒褐	
352	切子玉	24.8	15.3	14.8	白		381	土玉	9.5	9.2	7.8	黒褐	
353	管玉	29.7	10.3		緑		382	土玉	10.4	10.3	7.7	黒褐	
354	管玉	30.0	10.2		緑		383	土玉	9.5	9.4	7.5	黒褐	
355	管玉	28.2	8.8		緑		384	ガラス玉	9.0	8.0	5.5	青	
356	管玉	21.6	8.5		緑		385	ガラス玉	8.7	7.5	6.1	青	
357	管玉	30.3	9.9		緑		386	ガラス玉	8.4	8.1	5.2	青	
358	管玉	15.7	8.4		緑	破損品	387	ガラス玉	7.5	7.2	6.2	青	
359	管玉	17.8	6.7		青	ガラス	388	ガラス玉	8.6	8.0	5.0	青	
360	ガラス玉	13.5	13.4	8.7	青		389	ガラス玉	9.0	8.5	6.0	青	
361	ガラス玉	7.8	6.8	8.1	青		390	ガラス玉	7.3	7.3	5.3	青	
362	ガラス玉	13.5	13.2	9.8	青		391	土玉	9.8	9.3	7.9	黒褐	
363	ガラス玉	13.4	13.3	9.2	青		392	ガラス玉	8.0	7.9	6.6	青	
364	ガラス玉	12.7	12.0	7.9	青		393	ガラス玉	9.3	8.7	4.6	青	
365	ガラス玉	12.3	12.0	9.4	青		394	土玉	9.2	8.8	8.2	黒褐	
366	ガラス玉	13.0	12.8	8.9	青		395	ガラス玉	14.3	13.7	8.9	青	
367	ガラス玉	12.5	12.3	8.7	青		396	ガラス玉	13.2	13.0	8.7	青	
368	土玉	10.9	10.9	7.4	黒褐		397	ガラス玉	12.2	12.2	9.1	青	
369	ガラス玉	12.1	12.1	8.4	青		398	ガラス玉	13.1	12.2	8.0	青	
370	ガラス玉	11.3	10.8	10.6	青		399	ガラス玉	11.8	11.3	7.9	青	
371	ガラス玉	11.1	10.5	6.9	青		400	ガラス玉	10.2	9.8	8.5	水色	
372	土玉	11.4	11.2	9.1	黒褐		401	ガラス玉	10.2	9.8	6.2	緑	
373	土玉	10.6	10.5	9.3	黒褐		402	ガラス玉	9.5	9.2	5.0	青	
374	ガラス玉	12.4	12.3	8.4	青		403	ガラス玉	8.5	8.2	6.4	青	

No	種 別	径・長	幅・高	厚	色	備 考
404	ガラス玉	8.0	7.8	4.2	青	
405	ガラス玉	7.3	7.0	4.1	青	
406	ガラス玉	6.3	6.3	3.7	緑	
407	ガラス玉	6.3	6.3	4.2	緑	
408	ガラス玉	6.0	5.8	3.1	青	
409	ガラス玉	5.9	5.8	3.9	青	

No	種 別	径・長	幅・高	厚	色	備 考
410	ガラス玉	6.0	6.0	3.2	青	
411	ガラス玉	5.9	5.9	4.1	茶	
412	ガラス玉	4.0	4.0	3.1	水色	
413	ガラス玉	3.7	3.6	1.8	青	
414	ガラス玉	3.6	3.6	1.8	青	

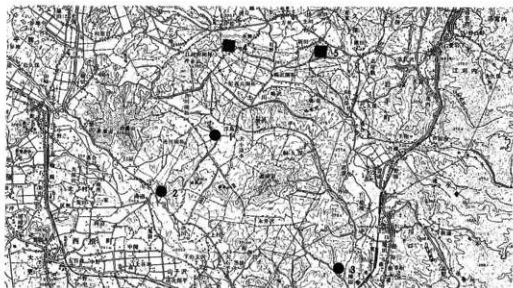
III 浮島古墳群

1. 立地と環境 (第17・18図)

盛岡市中心部から北へ約30km付近では、北上川と涼川に挟まれた比較的緩やかな丘陵が南北に延び、北上川に合流する小河川がところどころに小さな沢を形成する。浮島古墳群は、こうした沢の一つに面した形で、緩斜面を利用して営まれている。遺跡の位置は岩手町の最西端に近く、隣接する西根町との町境までわずか2kmほどであり、岩手町と西根町の中心部からほぼ中間地点に所在する。東南には、標高472mの送仙山が、西方には428mの白屋山が聳えている。これらのほか、北に丹谷山、



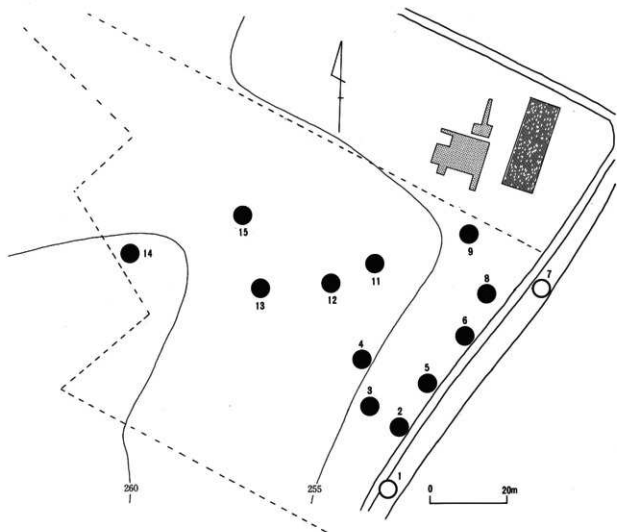
写真29：浮島古墳付近空中写真



第17図 浮島古墳群とその周辺遺跡(1/100,000)

(国土地理院発行 1:50,000沼宮内)

(1. 浮島古墳群 2. 谷助平古墳群 3. 永井古墳群 4. 今松遺跡 5. 仙波堤遺跡)



第18図 浮島古墳群の分布と発掘区（アミ部分）

南に狐森山と鞍掛山が位置するため、遺跡付近は低湿地帯を形成している。1950年代から60年代にかけて調査が行われた西根町谷助平古墳群は西南約2km、岩手町今松遺跡は北へ約2km、同町仙波堤遺跡は北東約3kmに位置している。

第2次世界大戦以前は、この付近は軍馬放牧地として利用されていたため、一帯が原野であったという。戦後、これらの地は開拓地として開墾され、大部分が畑として耕作が及んでいる。今回われわれが調査した第10号墳の所在する畑地も、ながいも・とうもろこし・大根・ピーマンなどが作付され、年ごとに遺跡の現況が変化してきている。

現在、浮島古墳群と呼ばれている古墳群は全部で16基の存在が確認されており、そのうち2基は町道工事の際に湮滅し、12基は、県指定史跡として保存・活用がはかられている。調査を

行った第10号墳は、古墳群の最北東端に位置し、史跡指定範囲まで10mほどの距離である。耕作のためばかりでなく、冬期間などの強風のためもあったか、前回調査が行われた当時においても、すでに墳頂が墳丘中心部よりやや南によっていたという。

2. 調査の概要（第19図）

調査開始時点で、調査対象と考えていた10号墳の墳丘は、畑耕作によって原形をとどめておらず、表土除去以前に行った25cm間隔の等高線を付した地形測量においても、その痕跡を見出すことはできなかった。したがって、まず墳丘の所在地を確認するため、畑地中に設置されている農作物栽培用のビニールハウスに平行する東西トレンチ（10×1 m）と、その東端と直交する南北トレンチ（10×1 m）を設定し、耕作土を除去した。その結果、東西トレンチ・南北トレンチともに周濠の埋土と考えられる層を検出したため、両トレンチの内側を拡張し、一辺約10mの方形の調査区域全面の耕作土を除去した。

遺跡の基本層序は、Ⅰ層（耕作土）、Ⅱ層（黒色土）、Ⅲ層（黄褐色土層、いわゆる地山）である。遺構の検出面は、Ⅱ層上面である。周濠埋土中には、灰白色の火山灰ならびにⅡ層の黄褐色土とは明瞭に識別される黒色土が認められる。古墳の周濠と考えられる層の広がり、明らかに2基の遺構の存在を示しており、当初予想していた10号墳がそのいずれのを指していたのかは明らかでない。調査の過程では、南側のより小規模なものを10a号墳、北側のものを10



写真30：浮島古墳群遠景



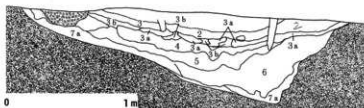
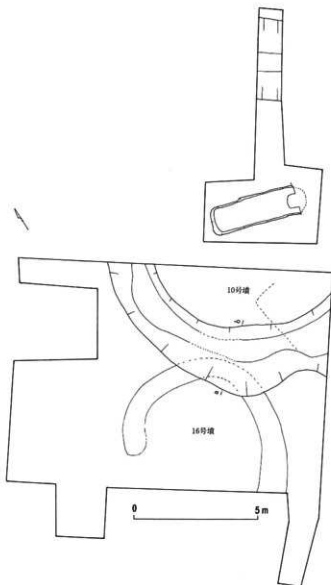
写真31：浮島古墳群近景(1)



写真32：浮島古墳群近景(2)



写真33：10号墳・16号墳周濠検出状況



- 土層注記
- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒色土 (周濠埋土) | 6 黒褐色土 (周濠埋土) |
| 2 やや褐色がかった黒色土 (周濠埋土、火山灰粒子を含む) | 7a 暗褐色土 (周濠埋土、ロームブロックを含む、汚れている) |
| 3a 灰白色火山灰 (周濠埋土、土和団aと考えられる) | 7b 暗褐色土 (周濠埋土、ロームブロックの量が多い) |
| 3b 黒褐色土 (周濠埋土、火山灰粒子を含む) | |
| 4 黒褐色土と灰白色火山灰の混じり (周濠埋土) | |
| 5 黒褐色土 (周濠埋土、黒味強い) | |

第19図 浮島古墳群10号墳・16号墳発掘区平面図
および10号墳周濠層序断面図

b号墳としたが、この報告を機に、10号墳を10a号墳と呼んだものに対して用いることとし、10a号墳としたものを新たに16号墳と命名する。

10号墳の主体部は調査区域中には検出されず、そのさらに北側に位置すると予想されたため、ビニールハウス内部に4×2.5mの小トレンチを設定し、耕作土を除去した。その結果、III層を掘り込んだと考えられる長楕円形の暗褐色の層が東西方向を長軸として認められたため、この古墳の主体部であると判断した。なお、16号墳の主体部は検出できず、調査時点ですでに削平されていたものと考えられる。

さらに、10号墳の周濠規模を確認するため、主体部からさらに北方向へトレンチを設定し、耕作土を除去した。周濠の北端が主体部中央から約5～7mを中心に検出され、この遺構全体のおおよその規模が明らかとなった。また、10号墳と16号墳の周濠はごくわずかに重複しているが、16号墳の周濠の掘り込みが非常に浅いため、それらの掘り込みの前後関係は明確に把握し得なかった。

遺構精査を行ったのは、10号墳周濠の一部と主体部である。16号墳については周濠の広がりを確認したにとどめた。また、調査期間の制約から、10号墳の周濠についても全掘は行わなかった。10号墳主体部および周濠の精査を行った後、遺構埋土と現耕作土の埋め戻しを行い、浮島古墳群の調査を終了した。



写真34：10号墳主体部検出状況(I)

3. 墳丘

耕作等により削平され、調査時点ではまったく遺存していなかった。

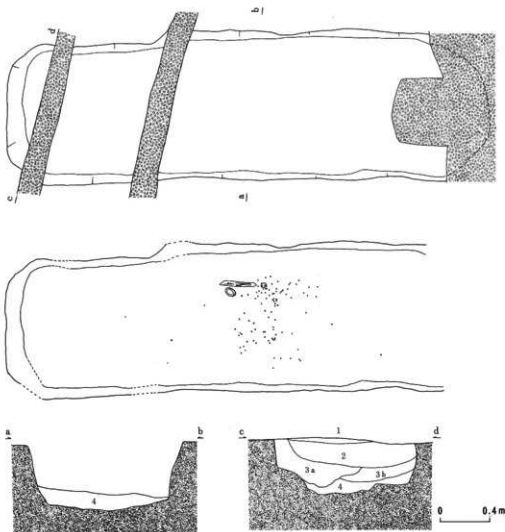
4. 主体部 (第20図)

主体部は、周濠のほぼ中央付近に位置していると考えられる。主軸方向は西北西—東南東で、一端が盗掘による土壌攪乱をうけている。中央より西北西に畑耕作の際に掘られた溝が2条認められ、主体部の底面をさらに掘り込んで深さ1mにおよんでいる。主軸長は確実に把握できる部分が上場で3.6mで、さらに東南東の方向に延びていたと予想される。主軸と直交する軸の最大長は上場で1.2mほどである。



写真35：主体部完掘状況(I)

平面形はやや隅丸の長方形となり、長軸長が短軸長に比し



- 土層注記 1. 黒褐色土 (10YR 5/6) やや粘性あり
主体部埋土2層と、現粘作土層とがまじる
2. 黒褐色土 (10YR 5/6) 粘性あり、ややらかい
主体部の埋土、最下部 (3層との層界面) に、暗黄褐色の粘土質の土がブロック状に、一部層状にはいつている
3. 黒色土a (10YR 1/1) 粘性あり、ややらかい
b (10YR 5/6)
主体部の埋土、aとbの区分は明瞭でない場合がある
上部でややかたい
遺物の多くはこの層に包含される
4. 暗褐色土 (10YR 5/6) 粘性あり、上面でかたい
主体部掘り込みの際の粘土床状のもの
地山の黄褐色粘土が径2~3cmでブロック状にまじる
下面は凹凸にとむ箇所がある

第20図 浮島古墳10号墳主体部平面図および層序断面図

て大きいため、細長い形状となっている。底面はほぼ平坦となる。II層上面から底面までの深さは最大60cmほどであるが、底面の大部分は、厚さ約10cmほどに地山の土壌を貼り固めている。底面から壁面への立ち上がりは急角度である。埋土を観察すると、地山の層がブロック状に堆積する層が認められる。木棺直葬の主体部であるとするならば、これらの地山ブロックが主体部の天井を覆っていたものと考えてよいであろう。地山の土壌を用いながら粘土槨と同様の効果を意図したものと見ることができよう。

遺物は、埋土2層中から3層上面にかけて出土している。主体部のほぼ中央からやや北よりに鉄器類およびガラス玉等が集中し、小刀は、柄頭を東南東の方向に向けていた。ほとんどは原位置を保っているものと思われるが、ガラス玉の一部は主体部を寸断している後世の溝の形成の際に位置を移動している可能性がある。

5. 周湮

全体を検出しなかったものの、広がりを確認し得たことからおよそその状況を推定できる。規模は、北東—南西の方向に、外径15.0m、内径9.1mほどで、幅は、上場で1.8~2.7m、深さ0.7m前後である。遺構検出面から20cmほどの下位に、十和田起源と考えられる灰白色の火山灰層が自然堆積の状態で層をなしており、周湮全体が自然堆積であったことをうかがわせる。周湮最深部は墳丘の内側よりに位置し、立ち上がりは内側がより急角度となる。周湮東側は、一部がすでに削りとられており、その崖面に周湮埋土が露出している。これより、主体部の長



写真36：主体部内遺物出土状況



写真37：周湮埋土堆積状況



写真38：周湮発掘状況



写真39：須恵器片出土状況

軸に面した部分は両方向ともとぎれていないものと考えられる。なお、南北トレンチで検出された部分が、大きく外側に張り出している。未調査のため判然としない部分があるが、この部分で、周溝内部の土壌が本来のII層に比して濁りが著しく、また、土層断面の観察によりほぼ垂直の立ち上がりも確認できたため、10号墳造営以前の堅穴状の遺構と重複していた可能性を考えている。

遺物はほとんど出土していないが、火山灰層より下位の埋土中から須恵器片が、堅穴状遺構と重複した部分の埋土中から土師器片がごく少数出土している。



写真40：主体部検出状況(2)



写真41：調査説明会風景

6. 出土遺物 (第21図)

(1) 主体部

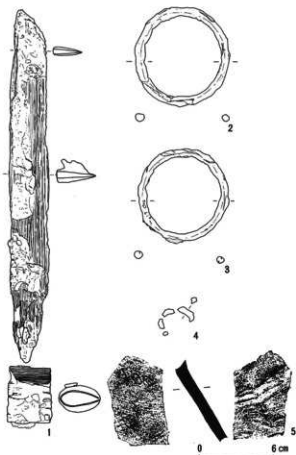
小刀1口(21-1、写真17) 柄頭金具を装着する。推定全長33.8cm、柄頭を除いた部分の全長28.5cmである。柄頭は方頭状を呈する。茎に巻かれていたものと考えられる幅1cm程度の樹皮が付着している。2枚の柄木を左右から茎にかぶせるもので、両区である。茎の先端部に、目釘孔の痕跡がわずかに認められる。縄を装着する。茎から切先にかけて広く木質が付着している。鐙、足金具等は認められない。

環状鉄製品2点(21-2・3、写真17) 2点が同一カ所から出土しているため、遺物取り上げの段階では錆で両者が接着された状態であった。2は径7.7~8.0cm、太さ径0.6cmのほぼ正円形である。3は径7.2~7.5cm、太さ径0.5cm。途中でとぎれている箇所などは認められない。このような遺物は従来鉄剣などと称して紹介されている。類例は多くなく、分布域も限られているようである。

環状銅製品(21-4、写真17) 1点出土した。腐食が著しいが、径3cm程度。耳環ないしそれに類した装飾品と考えられる。

人歯(21-4、写真17) 3点出土した。1点は右下顎第二小臼歯である。

ガラス玉227点(写真1) ほとんどは径0.5mm以下である。径1~2mmの孔が開いている。まれに径1cm前後の物がある。色調は濃紺が多いが、明るい青や空色、わずかに黄色が混じる。



第21図 浮島古墳10号墳主体部
および周濠出土遺物実測図

(1. 直刀 2・3. 環状鉄製品 4. 環状銅製品)
(以上主体部出土 5. 須恵器片 甕 以上周濠出土)

している。

直刀 (22-1) 全長44cmで、刃部が一部腐食によって欠損しているものの、比較的良好な保存状態である。刀身は平造りで、重ねはやや厚い。茎には、明瞭な目釘穴を有している。鐔は倒卵形である。両区である。

刀子 (22-2・6) 茎に目釘穴を有し、両区で、鐔が装着されているもの (2) と、茎に木質を残しているもの (6) とがある。

鉄鏃 (22-3・4) いずれも有茎腸括式のものである。茎が途中で欠損し、全体の長さは不明である。偏平である。

釵状鉄製品 (22-5) 偏平な板状を呈するが、先端が針状になり三叉に分かれている。類例に乏しい。

土師器壺 (22-9) 体部ほぼ中央に最大径を有する。口唇に沈線状を呈する調整が施される。

(2) 周濠

須恵器片 (21-5、写真17)

甕の頸部付近と考えられる。

器表面にはわずかにタタキメの痕跡を残す。ロクロ整形の際の横方向の平行した線条痕が認められる。裏面には、やや不明瞭ながら青海波文が見えている。

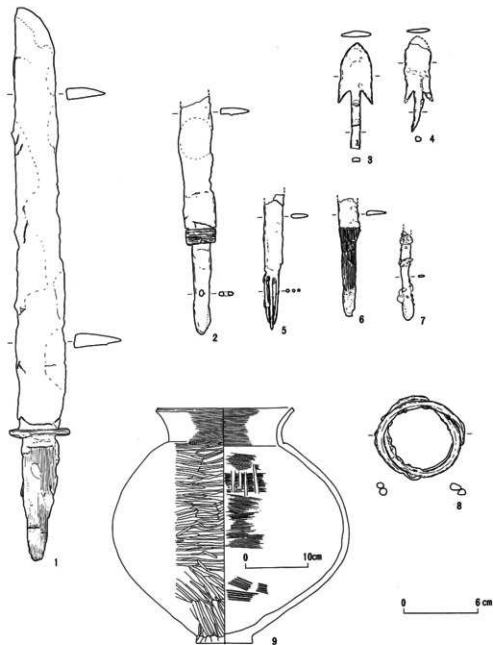
土師器片 (写真17) 11点出土している。いずれも小片のため、細かな器形を知ることは困難である。甕の体部破片と考えられるものには、表面にヘラケズリが認められる。10号墳に伴う遺物かどうか判然としない。

(3) 以前の調査の際に出土した遺物 (第22図)

一部のみ再掲した。直刀・刀子・鉄鏃・環状鉄製品土師器 (壺)・ガラス玉などである。このほか、環状銅製品などが出土

口縁部は内外面ともナデ調整がなされる。体部外面は底部付近まで丁寧にミガかれる。

(佐藤)



第22図 浮島古墳群出土遺物実測図
(1957年調査資料)

(1. 9 4号墳出土
2~8 11号墳出土)

表11. 浮島古墳群出土刀剣類計測表

番 号 出 土 古 墳	資 料 番 号	全	刃	茎	元	先	重	鋒	銛	銛	全	反	区
		長	長	長	幅	幅	ね	長	長	重 ね	反 り	り	
10号墳	21-1	(33.9)	22.1	5.5	3.2	2.5	0.4	3.8	—	—	—	0	両区
4号墳	22-1	44.0	33.5	9.9	3.2	—	0.7	—	4.9	0.3	—	0	両区
11号墳	22-2	—	—	8.8	2.5	—	0.5	—	—	—	—	—	両区
11号墳	22-6	—	—	6.8	1.6	—	0.4	—	—	—	—	—	両区

表12. 浮島古墳群10号墳出土ガラス玉計測表

No.	種 別	径・長	幅・高	厚	色	備 考	No.	種 別	径・長	幅・高	厚	色	備 考
1	ガラス玉	3.8	3.9	2.0	青		77	ガラス玉	3.5	3.6	2.0	紺	
4	ガラス玉	4.0	4.0	2.0	青		78	ガラス玉	3.9	4.0	2.4	青	
5	ガラス玉	3.9	4.0	1.9	青		79	ガラス玉	4.0	4.0	2.2	青	
6	ガラス玉	4.0	4.0	2.5	青		80	ガラス玉	4.3	4.3	2.4	青	
7	ガラス玉	3.9	3.9	2.0	青		81	ガラス玉	3.9	4.0	2.7	青	
8	ガラス玉	3.9	4.0	2.0	青		82	ガラス玉	3.9	3.9	2.0	青	
9	ガラス玉	6.0	6.0	4.4	紺		84	ガラス玉	3.6	3.9	2.0	青	
10	ガラス玉	3.8	3.8	2.9	青		85	ガラス玉	3.7	3.9	2.3	青	
12	ガラス玉	6.2	6.5	4.8	青		86	ガラス玉	3.7	3.8	2.0	青	
13	ガラス玉	3.9	3.9	2.2	青		87	ガラス玉	3.9	3.9	2.0	青	
15	ガラス玉	3.8	3.9	2.4	青		88	ガラス玉	4.0	4.2	2.1	青	
16	ガラス玉	4.1	4.5	2.6	青		89	ガラス玉	3.9	3.9	2.0	青	
17	ガラス玉	3.6	3.6	2.0	青		90	ガラス玉				青	破損
19	ガラス玉	6.0	6.2	3.2	青		91	ガラス玉	4.0	4.1	2.3	青	
25	ガラス玉	3.8	3.8	2.0	青		92	ガラス玉	3.6	3.9	2.3	青	
28	ガラス玉	4.0	4.0	2.7	青		93	ガラス玉	4.0	4.3	2.2	青	
30	ガラス玉	3.7	3.7	2.5	青		94	ガラス玉	3.5	3.5	2.0	青	
31	ガラス玉	5.6	5.7	3.6	青		201	ガラス玉	3.6	3.9	2.0	青	
36	ガラス玉	4.2	4.4	2.7	青		203	ガラス玉	3.6	3.8	2.4	青	
37	ガラス玉	3.4	3.5	2.0	青		204	ガラス玉	3.7	3.7	2.0	青	
44	ガラス玉	3.4	4.0	2.6	紺		205	ガラス玉	3.8	3.5	1.7	青	
47	ガラス玉	3.0	3.8	2.6	青		206	ガラス玉	3.7	3.9	2.4	紺	
49	ガラス玉	3.4	3.6	2.0	青		207	ガラス玉	3.9	4.0	2.4	紺	
50	ガラス玉	4.0	4.0	2.0	紺		208	ガラス玉	3.9	4.0	2.0	青	
53	ガラス玉	3.7	4.7	2.8	青		209	ガラス玉	3.6	3.7	2.0	青	
54	ガラス玉	3.6	3.7	2.0	青		209	ガラス玉	3.6	3.7	2.0	青	
55	ガラス玉	3.6	3.6	2.2	青		210	ガラス玉	3.4	3.4	2.0	青	
57	ガラス玉	5.0	5.2	3.5	青		211	ガラス玉	3.9	4.0	2.4	青	
58	ガラス玉	3.8	3.8	2.3	紺		212	ガラス玉	3.9	4.0	2.7	青	
59	ガラス玉	3.8	3.8	2.5	青		213	ガラス玉	3.9	4.1	2.2	青	
61	ガラス玉	4.0	4.0	2.2	青		214	ガラス玉	3.4	3.0	2.2	紺	
62	ガラス玉	4.0	4.0	2.2	青		215	ガラス玉	4.0	4.0	2.4	紺	
63	ガラス玉	4.0	4.0	2.4	青		216	ガラス玉	3.9	4.0	2.4	青	
64	ガラス玉	3.7	3.8	2.0	青		217	ガラス玉	3.8	3.8	2.0	青	
65	ガラス玉	3.6	3.7	2.5	紺		218	ガラス玉	3.9	4.0	2.0	青	
68	ガラス玉	3.5	3.8	2.5	紺		220	ガラス玉	3.4	3.6	2.2	青	
69	ガラス玉	4.0	4.0	2.9	紺		221	ガラス玉	3.9	3.9	2.0	青	
70	ガラス玉	3.0	3.1	1.8	青		222	ガラス玉	3.7	3.7	2.2	青	
72	ガラス玉	3.9	4.1	2.2	青		223	ガラス玉	3.5	3.5	1.7	青	
73	ガラス玉	3.8	3.8	2.1	青		224	ガラス玉	3.6	3.7	2.5	紺	
75	ガラス玉	3.8	3.9	2.8	青		225	ガラス玉	3.4	3.6	2.5	青	
76	ガラス玉	3.9	4.0	2.4	青		227	ガラス玉	3.6	3.6	2.0	青	

No	種 別	径・長	幅・高	厚	色	備 考
228	ガラス玉	3.9	3.9	2.0	紺	破損
229	ガラス玉	4.1	3.0	2.3	青	
231	ガラス玉	3.5	3.5	2.0	青	
245	ガラス玉	3.8	4.0	1.7	水色	
245	ガラス玉	3.6	3.8	2.0	紺	
249	ガラス玉	3.7	3.7	2.1	紺	
250	ガラス玉	3.7	3.8	2.7	青	
251	ガラス玉	3.9	3.9	2.3	青	
252	ガラス玉	4.3	4.3	2.2	青	
253	ガラス玉	3.9	3.9	2.0	青	
255	ガラス玉	4.0	4.0	2.2	青	
256	ガラス玉	4.2	4.5	2.9	青	
257	ガラス玉	3.8	3.8	2.4	青	
258	ガラス玉	4.0	4.0	2.5	青	
259	ガラス玉	3.4	3.5	2.0	青	
260	ガラス玉	3.7	3.8	2.7	紺	
261	ガラス玉	4.0	4.0	4.0	青	
262	ガラス玉	3.5	3.6	1.8	青	
263	ガラス玉	4.1	4.1	2.5	深緑	
264	ガラス玉	4.0	4.0	2.4	紺	
265	ガラス玉	4.0	4.0	3.0	青	
266	ガラス玉	4.0	4.0	2.4	青	
267	ガラス玉	3.9	3.9	3.3	紺	
268	ガラス玉	3.8	3.8	2.2	水色	
269	ガラス玉	3.9	4.0	2.0	青	
270	ガラス玉	3.7	3.7	2.4	青	
271	ガラス玉	3.2	4.0	2.0	青	
272	ガラス玉	3.5	3.8	1.8	青	
273	ガラス玉	3.4	3.7	2.0	紺	
274	ガラス玉	3.7	3.7	2.0	青	
275	ガラス玉	3.4	3.4	1.8	水色	
276	ガラス玉	3.9	4.0	2.3	青	
277	ガラス玉	3.9	3.9	2.0	青	
278	ガラス玉	3.6	3.7	2.3	紺	
279	ガラス玉	3.8	3.8	2.3	青	
280	ガラス玉	2.7	3.0	1.5	青	
281	ガラス玉	4.0	4.2	2.6	紺	
282	ガラス玉	3.9	3.9	2.6	青	
283	ガラス玉	4.1	4.1	2.1	青	
284	ガラス玉	3.9	3.9	2.5	青	
285	ガラス玉	4.0	4.0	2.0	青	
286	ガラス玉	3.8	3.8	2.3	青	
287	ガラス玉	3.9	4.1	2.3	青	
288	ガラス玉	3.2	3.3	2.2	紺	
289	ガラス玉	3.8	3.8	2.1	紺	
290	ガラス玉	3.0	3.0	2.0	青	

No	種 別	径・長	幅・高	厚	色	備 考
291	ガラス玉	4.0	4.0	2.3	青	
292	ガラス玉	3.9	3.9	2.0	青	
293	ガラス玉	4.4	4.4	2.4	水色	
294	ガラス玉	3.9	3.9	2.6	青	
295	ガラス玉	3.8	3.9	1.9	青	
296	ガラス玉	3.6	3.6	2.4	青	
297	ガラス玉	4.0	4.0	2.8	青	
299	ガラス玉	3.8	4.0	2.2	青	
300	ガラス玉			2.0	青	破損
301	ガラス玉	5.5	5.8	2.6	青	
302	ガラス玉	3.6	3.7	1.9	青	
303	ガラス玉				青	
304	ガラス玉	3.8	3.8	2.8	青	
305	ガラス玉	4.0	4.4	2.3	青	
306	ガラス玉	3.6	3.7	2.0	青	
307	ガラス玉	3.6	3.6	2.5	青	
308	ガラス玉	4.0	4.0	2.6	青	
310	ガラス玉	3.6	3.8	2.0	青	
311	ガラス玉	3.5	3.6	1.8	青	
312	ガラス玉	2.2	4.2	2.3	青	
313	ガラス玉	3.9	3.9	1.8	青	
314	ガラス玉	3.0	3.3	1.8	青	
315	ガラス玉	3.8	3.8	2.0	青	
317	ガラス玉	3.3	3.6	1.8	青	
318	ガラス玉	2.7	2.7	1.8	青	
319	ガラス玉	3.7	3.8	2.0	青	
320	ガラス玉	3.6	3.7	2.0	青	
321	ガラス玉	3.4	3.6	2.0	青	
322	ガラス玉	3.7	3.9	2.1	青	
323	ガラス玉	3.6	3.8	2.3	青	
324	ガラス玉	3.4	3.4	2.0	青	
325	ガラス玉	3.3	3.3	1.5	青	
326	ガラス玉	3.6	3.6	2.5	青	
327	ガラス玉	3.6	3.7	2.0	青	
328	ガラス玉	3.8	3.8	2.4	青	
329	ガラス玉	2.8	3.4	1.4	青	
330	ガラス玉	4.2	4.2	2.6	青	
331	ガラス玉	3.4	3.5	1.6	青	
332	ガラス玉	3.3	3.6	2.0	青	
333	ガラス玉	3.9	3.9	2.0	青	
334	ガラス玉	3.6	3.5	2.0	青	
335	ガラス玉	3.6	3.4	1.8	青	
337	ガラス玉	3.9	3.9	2.0	青	
338	ガラス玉	4.0	4.0	2.9	青	
339	ガラス玉	3.8	3.9	2.1	青	

表13. 浮島古墳群 9・11号墳出土ガラス玉計測表

№	種別	径・長	幅・高	厚	色	備考	№	種別	径・長	幅・高	厚	色	備考
415	ガラス玉	4.7	4.7	3.5	青		466	ガラス玉	4.0	4.0	3.0	青	
416	ガラス玉	4.0	3.9	2.5	青		467	ガラス玉	4.0	4.0	2.7	青	
417	ガラス玉	4.2	4.2	2.7	青		468	ガラス玉	4.8	4.7	3.0	青	
418	ガラス玉	4.0	4.0	2.4	青		469	ガラス玉	3.5	3.5	2.2	青	
419	ガラス玉	4.0	4.0	2.8	青		470	ガラス玉	4.5	4.3	2.5	青	
420	ガラス玉	4.2	4.2	2.2	青		471	ガラス玉	2.7	2.7	2.0	青	
421	ガラス玉	3.9	3.9	2.3	青		472	ガラス玉	4.4	4.3	3.2	青	
422	ガラス玉	3.9	3.9	2.0	青		473	ガラス玉	5.2	4.9	2.7	青	
423	ガラス玉	4.3	4.3	2.8	青		474	ガラス玉	4.0	4.0	2.5	青	
424	ガラス玉	4.2	4.2	3.1	青		475	ガラス玉	4.4	4.4	3.0	青	
425	ガラス玉	3.9	3.9	2.5	青		476	ガラス玉	3.7	3.7	1.9	青	
426	ガラス玉	4.8	4.8	4.0	青		477	ガラス玉	3.9	3.8	2.4	青	破損
427	ガラス玉	4.5	4.5	3.6	青		478	ガラス玉	4.0	4.0	2.3	青	
428	ガラス玉	4.0	4.0	2.6	青		479	ガラス玉	4.1	4.0	2.2	青	
429	ガラス玉	4.8	4.8	4.0	黒褐		480	ガラス玉	3.9	3.9	2.8	青	
430	ガラス玉	3.9	3.9	2.6	青		481	ガラス玉	4.1	4.1	3.0	青	
431	ガラス玉	3.9	3.7	2.6	青		482	ガラス玉	3.9	3.8	2.2	青	
432	ガラス玉	4.1	4.1	2.6	青		483	ガラス玉	4.1	4.1	2.5	青	
433	ガラス玉	3.7	3.7	2.5	青		484	ガラス玉	4.3	4.3	2.4	青	
434	ガラス玉	4.0	4.0	3.4	青		485	ガラス玉	4.2	4.2	2.6	青	
435	ガラス玉	4.5	4.5	3.2	青		486	ガラス玉	4.1	4.1	2.5	青	
436	ガラス玉	4.1	3.8	2.3	青		487	ガラス玉	3.6	3.6	2.0	青	
437	ガラス玉	4.4	4.4	3.2	青		488	ガラス玉	4.3	4.3	2.5	青	
438	ガラス玉	4.3	4.1	2.9	青		489	ガラス玉	4.1	4.1	2.4	青	
439	ガラス玉	3.5	3.5	2.7	青		490	ガラス玉	3.3	3.3	1.9	青	
440	ガラス玉	4.5	4.3	2.8	青		491	ガラス玉	4.5	4.5	3.1	青	
441	ガラス玉	3.6	3.5	2.2	青		492	ガラス玉	4.3	4.5	2.4	青	
442	ガラス玉	4.4	4.4	3.1	青		493	ガラス玉	4.3	4.3	2.8	青	
443	ガラス玉	3.7	3.7	2.0	青		494	ガラス玉	4.5	4.5	3.4	青	
444	ガラス玉	4.1	4.1	2.1	青		495	ガラス玉	4.3	4.3	3.2	青	
445	ガラス玉	3.7	3.7	2.0	青		496	ガラス玉	4.2	4.2	2.7	青	
446	ガラス玉	3.9	3.8	2.4	青		497	ガラス玉	5.2	4.9	3.9	黒褐	土玉?
447	ガラス玉	3.9	3.9	3.0	青		498	ガラス玉	3.6	3.6	2.0	青	
448	ガラス玉	4.2	4.0	2.4	青		499	ガラス玉	3.9	3.9	3.0	青	
449	ガラス玉	3.6	3.6	2.4	青		500	ガラス玉	4.0	4.0	2.4	青	
450	ガラス玉	3.6	3.6	2.0	青		501	ガラス玉	3.6	3.6	2.0	青	
451	ガラス玉	3.6	3.5	1.9	青		502	ガラス玉	4.5	4.5	3.1	青	
452	ガラス玉	3.3	3.3	2.1	青		503	ガラス玉	3.5	3.5	2.1	青	
453	ガラス玉	3.5	3.5	1.8	青		504	ガラス玉	3.8	3.8	2.4	青	
454	ガラス玉	4.3	4.3	3.1	青		505	ガラス玉	4.0	3.9	2.3	青	
455	ガラス玉	5.0	4.9	3.4	青		506	ガラス玉	4.0	4.0	3.2	青	
456	ガラス玉	4.2	4.0	2.5	青		507	ガラス玉	4.0	3.8	3.0	青	
457	ガラス玉	3.8	3.8	3.1	青		508	ガラス玉	4.1	4.0	2.9	青	
458	ガラス玉	4.0	4.0	2.2	青		509	ガラス玉	4.0	4.0	2.5	青	
459	ガラス玉	3.5	3.5	1.9	青		510	ガラス玉	4.0	4.0	2.6	青	
460	ガラス玉	4.0	4.0	2.5	青		511	ガラス玉	3.6	3.4	2.3	青	
461	ガラス玉	4.3	4.3	2.8	青		512	ガラス玉	4.0	4.0	2.8	青	
462	ガラス玉	4.2	4.2	2.3	青		513	ガラス玉	4.0	4.0	2.4	青	
463	ガラス玉	4.4	4.4	2.7	青		514	ガラス玉	3.8	3.8	1.8	青	
464	ガラス玉	4.1	4.1	2.1	青		515	ガラス玉	3.8	3.8	1.9	青	
465	ガラス玉	4.4	4.4	3.0	青								

表14. 末期古

道 路 名	道 橋 名	形 状						土 師 器					須 恵 器				
		主体部	周部	長軸	短軸	幅	深さ	坪	壺	高坪	壺	その他	坪	壺	提瓶	皿	その他
堀野道跡	イ号環状溝			12.0	12.0	2.0											
堀野道跡	ロ号環状溝			17.0	17.0	2.5											
堀野道跡	堀野古墳	G		12.0	12.0	1.5											
御所野道跡	1号墳	C	B	10.4	9.6	2.6		b 1									
御所野道跡	2号墳	A	D	9.0	7.8	2.4											
御所野道跡	3号墳		B	11.6	10.8	1.8											
御所野道跡	4号墳		C	9.4		1.0											
御所野道跡	5号墳		B	8.8	8.8	1.7											
御所野道跡	6号墳			10.6	10.4	1.9		b 1					b 1				
御所野道跡	7号墳	C															
御所野道跡	8号墳	C															
御所野道跡	9号墳		D	7.6		1.1											
御所野道跡	11号墳		B	6.4	6.3	2.1											
御所野道跡	12号墳		B	5.2	5.1	2.1											
御所野道跡	13号墳																
御所野道跡	16号墳		B	15.6	12.4	5.6											
御所野道跡	17号墳	C	D	8.4		3.6					b 1						
御所野道跡	18号墳	C															
御所野道跡	19号墳	C															
御所野道跡	20号墳																
御所野道跡	21号墳		B	6.2	5.9	1.5			b 1								
御所野道跡	22号墳		B	8.2	7.2	3.1		b									
御所野道跡	30号墳	C															
御所野道跡	31号墳	C															
御所野道跡	41号墳		A	6.0		2.4											
御所野道跡	46号墳		D	5.6		2.3											
御所野道跡	47号墳			9.8		4.1											
浮島古墳	4号墳	C		13.0							c 1						
浮島古墳	9号墳			11.2													
浮島古墳	10号墳	C		15.0		2.0	0.4							b 1			
浮島古墳	11号墳	C		11.5													
浮島古墳	15号墳	C		3.8													
浮島古墳	16号墳		D	7.0		0.8	0.1										
浮島古墳	1号墳	C		9.2													
谷助平古墳	1号墳	A		13.0	12.0			a 1					a 1	a 1			
谷助平古墳	2号墳	A		6.0				a 1									
上田郷南古墳	1号墳	C		5.0	4.8	0.3	0.1	a 1									
上太田郷南森		F												a 1			
上太田郷南森	1号墳																
上太田郷南森	2号墳	E F	B									a b 破片				a b 破片	

表15. 末期古

道跡名	道跡名	形 状						土 箇 部					頭 窓 部				
		主体部	周造	長軸	短軸	幅	深さ	坪	妻	高坪	窓	その他	坪	壁	暖房	窓	その他
上太郎頼典	3号墳	F				1.3	0.5										
長根1道跡	1号古墳	C		7.2		1.6	0.2										
長根1道跡	2号古墳	C		8.4		1.3	0.5										
長根1道跡	3号古墳	C		6.5		1.2	0.4	b 2									
長根1道跡	4号古墳	C		6.2		0.8	0.3										
長根1道跡	5号古墳			6.6		0.8	0.5										
長根1道跡	6号古墳	C		6.2		1.1	0.6	b 1									
長根1道跡	8号古墳			5.5		0.7	0.2										
長根1道跡	9号古墳	C		7.9		1.2	0.7	b 1									
長根1道跡	10号古墳			7.5		1.7	0.6										
長根1道跡	11号古墳	C		5.9		1.0	0.5										
長根1道跡	12号古墳	C		5.4		0.6	0.2										
長根1道跡	13号古墳	C		5.3		0.8	0.4						b 1				
長根1道跡	15号古墳			4.3		1.1	0.4										
長根1道跡	16号古墳	C															
長根1道跡	17号古墳			4.8		0.9	0.2	b 1									
長根1道跡	18号古墳	C		4.4		1.2	0.2										
長根1道跡	19号古墳			5.0		1.2	0.3										
長根1道跡	20号古墳	C		7.7		2.0	0.5	b 1						b 1			
長根1道跡	21号古墳	C		5.3		0.9	0.2										
長根1道跡	22号古墳	C		4.9		0.8	0.2	b 1									
長根1道跡	23号古墳			5.4		0.7	0.4										
長根1道跡	24号古墳	C		5.3		0.9	0.2										
長根1道跡	25号古墳	C		10.2		2.6	0.6	b 1		b 1			b 1	b 1			
長根1道跡	26号古墳			14.6		3.3	0.7						b 2				
長根1道跡	27号古墳	C		5.0		1.0	0.3										
長根1道跡	28号古墳	C		4.5		0.5	0.1										
長根1道跡	29号古墳			4.0		1.0	0.3										
長根1道跡	30号古墳			3.9		0.7	0.3										
藤沢秋森古墳	2号墳	C		13.0		1.0	0.4										b不明2
藤沢秋森古墳	3号墳	B	B	7.5	7.0	1.0	0.5	b 2	b 1	a b 1							
藤沢秋森古墳	4号墳		B	8.0	7.6	0.9	0.5	b 1	b 2								
藤沢秋森古墳	5号墳	C		12.0		1.6	0.6								b 4		
藤沢秋森古墳	6号墳	C		9.0		0.7	0.5										
藤沢秋森古墳	12号墳	C				2.0	0.5										
藤沢秋森古墳	13号墳			10.0	9.0	1.0	0.6	b 1	b 3	b 3				b 2			b平版1
藤沢秋森古墳	14号墳	C		11.3		1.5	0.6										a平版1
藤沢秋森古墳	B I-1号墳			9.0	8.0	1.5	0.2										
藤沢秋森古墳	B II-1号墳			6.0	5.0	1.3	0.3	b 1									
藤沢秋森古墳	B II-2号墳			11.0	10.0	1.6	0.4										

表16. 末期古

遺跡名	遺構名	形状						土 師 器					須 恵 器				
		主体	周溝	長軸	短軸	幅	深さ	坪	罎	高坪	甕	その他	坪	罎	腰版	皿	その他
藤沢秋森古墳	BII-3号墳					1.3	0.2										
藤沢秋森古墳	BII-4号墳			8.0	7.0		0.3										
藤沢秋森古墳	BII-5号墳			6.0	5.0	0.5	0.1										
藤沢秋森古墳	CII-1号墳			14.0	13.0	1.5	0.5										
藤沢秋森古墳	DI-1号墳			9.0	8.0	2.0	0.5										
藤沢秋森古墳	DI-2号墳			6.0	5.0	1.4	0.4										
藤沢秋森古墳	DI-3号墳			6.0	5.0		0.5										
藤沢秋森古墳	DII-1号墳			12.0	11.0	2.0	0.6										
藤沢秋森古墳	EI-1号墳					1.0	0.5										
藤沢秋森古墳	EII-1号墳					1.3	0.5										
藤沢秋森古墳	EII-2号墳			7.0	6.0		0.4										
藤沢秋森古墳	EII-3号墳			11.0	10.0	2.0	1.9										
藤沢秋森古墳	EII-5号墳	C															
藤沢秋森古墳	SK04	C															
藤沢秋森古墳	SK10	C					a 2										
白沢遺跡	GJ03円形	C	C	7.4		0.6	0.1										
白沢遺跡	HC03円形			12.0		1.2	0.5										
白沢遺跡	HH03円形			12.0		1.4	0.4					b 長頸甕 1					
白沢遺跡	HI56円形			12.0		1.5	0.3				a 1						
熊堂古墳群	A-2号墳	F		10.7		0.5											
熊堂古墳群	A-3号墳	C						a12									
熊堂古墳群	A-4号墳	F		9.0													
熊堂古墳群	A-5号墳																
熊堂古墳群	A-6号墳																
熊堂古墳群	A-7号墳																
熊堂古墳群	A-8号墳	C															
熊堂古墳群	A-9号墳																
熊堂古墳群	B-1号墳	D															
熊堂古墳群	B-1号墳	G															
熊堂古墳群	C-3号墳	F															
熊堂古墳群	D-1号墳	B	B	15.0		1.5	0.6			a 1			b 1			b 長頸甕 1	
高瀬1遺跡	1号古墳		B	11.5	9.5	1.6	0.7										b 甕 1
高瀬1遺跡	2号古墳		B	7.2	7.0	1.0	0.5	b									b 短頸甕 1
高瀬1遺跡	3号古墳		B	11.5		1.5	0.5										
高瀬1遺跡	4号古墳		B	8.1		1.2	0.9	b									
高瀬1遺跡	5号古墳		B	9.0		1.0	0.4										
高瀬1遺跡	6号古墳		B	8.3	7.0	1.2	0.4										
高瀬1遺跡	7号古墳		B			0.7	0.4										
留谷地古墳群	1号墳	E		12.0							a 1						a 甕 1
留谷地古墳群	2号墳	E		9.5	8.0												

表17. 末期古

遺跡名	遺構名	形 状						土 器 類					遺 物 類				
		主体部	周壁	長軸	短軸	幅	深さ	環	壺	高環	甕	その他	環	壺	甕	瓶	その他
脇谷地古墳群	3号墳	E															
脇谷地古墳群	4号墳	E															
脇谷地古墳群	5号墳	E							a 1		a 1						
脇谷地古墳群	17号古墳	E															
脇谷地古墳群	SO601			17.4		3.0	0.4										
脇谷地古墳群	SO629	E	EF	11.3	9.4	1.3	0.3										
脇谷地古墳群	I J 15周壁		B	4.6	4.6	0.4	0.3										
脇谷地古墳群	J E53周壁			13.5	12.0	1.0	0.4										
五条丸古墳群	14号墳	E															
五条丸古墳群	15号墳																
脇谷地古墳群	16号墳																
五条丸古墳群	17号墳																
五条丸古墳群	18号墳																
五条丸古墳群	19号墳	E	B	10.3		1.0										a 破片 1	
五条丸古墳群	20号墳	F	B	11.0		1.2											
五条丸古墳群	21号墳	F	B	11.4		1.8	1.3										
五条丸古墳群	22号墳	F		10.1		1.5											
五条丸古墳群	23号墳	F	B	9.8		1.4											
五条丸古墳群	24号墳	F															
五条丸古墳群	27号墳																
五条丸古墳群	29号墳	F															
五条丸古墳群	30号墳	F		11.0		1.0											
五条丸古墳群	31号墳			9.5		1.0											
五条丸古墳群	35号墳	F	B	15.0		1.5											
五条丸古墳群	36号墳	D	B	10.0		1.5											
五条丸古墳群	37号墳	D															
五条丸古墳群	39号墳	D														a 4	
五条丸古墳群	40号墳	D				1.5											
五条丸古墳群	41号墳		B	9.6	9.4	1.0											
五条丸古墳群	42号墳	D	B	9.0		0.9											
五条丸古墳群	43号墳	F	B	14.7		2.0										a 1	
五条丸古墳群	44号墳	F	B	11.2		2.6										a 1	
五条丸古墳群	45号墳	D	B	16.4		2.0											
五条丸古墳群	46号墳	D				0.9											
五条丸古墳群	47号墳	D	B	13.5		1.5											
五条丸古墳群	48号墳	D		6.8		1.3					a 1						
五条丸古墳群	49号墳	D		9.9		1.0											
五条丸古墳群	50号墳	D		16.8		1.5											
五条丸古墳群	51号墳	D		5.0		1.2											
五条丸古墳群	52号墳	D		13.8		1.1											

表18. 末期古

遺跡名	遺構名	形 状					土 師 器					須 恵 器				
		主体部	周壁	長軸	短軸	幅	深さ	坪	壺	高坪	釜	その他	坪	壺	甕	その他
五条丸古墳群	53号墳	D														
五条丸古墳群	54号墳	D		15.8		1.5										
五条丸古墳群	55号墳	D				0.5										
五条丸古墳群	57号墳	D														
五条丸古墳群	58号墳	D		7.8		1.0										
五条丸古墳群	60号墳	D		6.2		1.1										
五条丸古墳群	62号墳	D														
五条丸古墳群	65号墳	D		4.0												
五条丸古墳群	66号墳	D	B	10.4		1.2			a 1	a 1						
五条丸古墳群	69号墳	D		6.0		1.0										
五条丸古墳群	70号墳	A	B													
五条丸古墳群	71号墳	D	E													
五条丸古墳群	72号墳	D		6.0		0.5										
五条丸古墳群	73号墳	D														
五条丸古墳群	74号墳	D				1.2										
五条丸古墳群	75号墳	D														
五条丸古墳群	76号墳	D														
五条丸古墳群	79号墳	D														
五条丸古墳群	S D 012			11.0		2.0	0.4									
五条丸古墳群	S D 013			9.6		1.2	0.3									
五条丸古墳群	S D 068		B	4.7	3.2	1.0	0.5									
五条丸古墳群	S D 069			14.8		2.0	0.7						b 1			
五条丸古墳群	S D 070		B			1.5	0.6									
五条丸古墳群	S D 074					1.2	0.6	b 2	b 2	a 1						
五条丸古墳群	S D 075		B			1.6	0.4									
五条丸古墳群	S D 078			14.5	13.3	2.5	0.5						b 1			
五条丸古墳群	S D 079		B	12.2	12.0	1.5	0.4	b 1					b 1			b 1
五条丸古墳群	S K 076	C														
長 沼 古 墳	第1号墳	F		10.0	9.9	1.0										
長 沼 古 墳	第2号墳	F		11.2		0.6										
長 沼 古 墳	第3号墳	E	D	10.5	10.0	1.2	0.2								c 器 2	
長 沼 古 墳	第4号墳	E F		10.0	9.5											
長 沼 古 墳	第5号墳	C ?		9.0	8.5											
長 沼 古 墳	第6号墳	E F		11.0	10.0											
長 沼 古 墳	第7号墳	E F		8.2	8.0											
長 沼 古 墳	第8号墳	E F														
長 沼 古 墳	第9号墳	E		13.9	13.0	1.2	0.4									
長 沼 古 墳	第10号墳	D		13.4	12.8	1.2	0.2			b 1						
長 沼 古 墳	第11号墳	A ?		8.5		0.8	0.4									
長 沼 古 墳	第12号墳	E F		10.0		0.5										

表19. 末期古

遺跡名	遺構名	形 状						土 師 器					遺 意 器				
		主体部	周縁	長軸	短軸	幅	深さ	坪	壺	高坪	蓋	その他	坪	壺	提瓶	皿	その他
長沼古墳	第13号墳	AD		9.4		0.7	0.2										
水口沢古墳		F						a 2									
西根遺跡	1号墳			10.3		1.6	0.4	c 1									b 壺 1
西根遺跡	2号墳	B		14.5	13.7	1.0	0.2	c 1					b 1				b 壺 1 他 1
西根遺跡	3号墳	D		6.5	5.8	0.8	0.1	c 1									
西根遺跡	4号墳			5.4	5.0	0.6	0.1	c 1									
西根遺跡	Cb-9周縁	B		8.9	8.1	1.2	0.3										b 1
西根遺跡	Cf-4周縁	B		10.5	8.4	1.2	0.2										
西根遺跡	Ca-6周縁	B		8.3	7.7	1.2	0.1	b 1									
西根遺跡	Ca-9周縁	D		10.1	9.8	1.1	0.2	b 1					b 1				
西根遺跡	Dd-5周縁	C		10.3	10.0	1.4	0.6										
西根遺跡	Df-7周縁	D		10.8	9.8	1.8	0.4										
西根遺跡	Dg-4周縁			9.8		1.5	0.3										
西根遺跡	Dh-10周縁	B		10.6	8.7	1.0	0.1	b 1									b 1
西根遺跡	Dj-7周縁	D		7.2	6.9	1.4	0.3										
西根遺跡	Ea-4周縁	D		6.2	6.0	0.8	0.1										
西根遺跡	Eb-9周縁	D		9.0	8.0	1.8	0.4	b 1					b 1				
西根遺跡	Ec-4周縁					1.4	0.4										
西根遺跡	Ec-5周縁	D		10.1	9.6	0.9	0.2										
西根遺跡	Ef-4周縁					1.6	0.7										
西根遺跡	Ek-11周縁			7.0		1.2	0.3										b 1
西根遺跡	El-6壺	C															
西根遺跡	Fa-4周縁					1.1	0.4					b 1					
西根遺跡	Fa-5壺	C															
西根遺跡	Ff-4周縁					1.2	0.2										
縦街道古墳	第1号墳			11.6	9.6	0.8	0.3										
縦街道古墳	第2号墳			10.0													
道場古墳	第1号墳	D															
道場古墳	第2号墳	D	B	11.0		1.1	0.3										
道場古墳	第3号墳	B		8.7		1.1	0.3										
道場古墳	第4号墳	B		9.8		1.3	0.3				a 1						
道場古墳	第5号墳	BD															
道場古墳	第6号墳	BD															
道場古墳	第7号墳	D		14.0		1.0											
見分森古墳	1号墳	EF	B	12.4	10.9	0.7	0.3	a 4									
見分森古墳	2号墳	EF															
見分森古墳	3号墳	EF															
杉山古墳群	第1号墳				10.0												
杉山古墳群	第2号墳			9.5													
杉山古墳群	第3号墳			6.0													

表20. 末期古

遺跡名	遺構名	形 状						土 器 器					遺 意 意			
		主体部	周縁	長軸	短軸	幅	深さ	坪	底	高坪	底	その他	坪	底	高坪	その他
杉山古墳群	第4号墳	F		8.0												
杉山古墳群	第5号墳	F									a 2					
丹後平古墳	1号墳	C	A					b 1								
丹後平古墳	2号墳	C	A					b 1	b 1	b 1						
丹後平古墳	2土墳	C														
丹後平古墳	3号墳	C	A													
丹後平古墳	4号墳	C	A					b 2								
丹後平古墳	5号墳	A	A							b 1						
丹後平古墳	6号墳	C	C													
丹後平古墳	10号墳	C	A					b 2					b 1			
丹後平古墳	10土墳	C														
丹後平古墳	11号墳	A	A													
丹後平古墳	13号墳	C	A					b 1	b 1							
丹後平古墳	14号墳	C	A													
丹後平古墳	15号墳	A	A					b 3	b 1	a 1			b 1	b 1		b長短型各1
丹後平古墳	16号墳	C	A					b 4	b 1							b短型各1
丹後平古墳	18号墳	A	A													
丹後平古墳	20号墳	C	A							b 1						
丹後平古墳	21号墳	C	A					b 1								
丹後平古墳	22号墳	C	A													
丹後平古墳	23号墳	C	A													
丹後平古墳	24号墳	C	A										b 1			
阿光坊遺跡	1号墳	C	A	7.8	7.5	1.2	0.4	b 1	b 1			b跡1				
阿光坊遺跡	2号墳	C	A	6.6	6.0	1.0	0.2	b 1	a b 2							
阿光坊遺跡	3号墳		A	7.7	7.0	1.5	0.2									
阿光坊遺跡	4号墳	C	A	6.6	6.3	0.9	0.2	b 4	b 1							
阿光坊遺跡	5号墳	C	C					b 1								
阿光坊遺跡	6号墳	C	A									a 1				
阿光坊遺跡	7号墳	C	B					b 2								
阿光坊遺跡	8号墳	C	B													
阿光坊遺跡	9 a号墳	C	B													
阿光坊遺跡	9 b号墳	C	B					b 2	b 1	b 1						
原古墳	1号墳															
原古墳	2号墳	C	C					b 1								
原古墳	3号墳	C	B													
飯島沢古墳	7号墳	A							a 2							
藤沢状森古墳	2号墳	B														
藤沢状森古墳	3号墳	B	B	13.0		1.5	0.7									

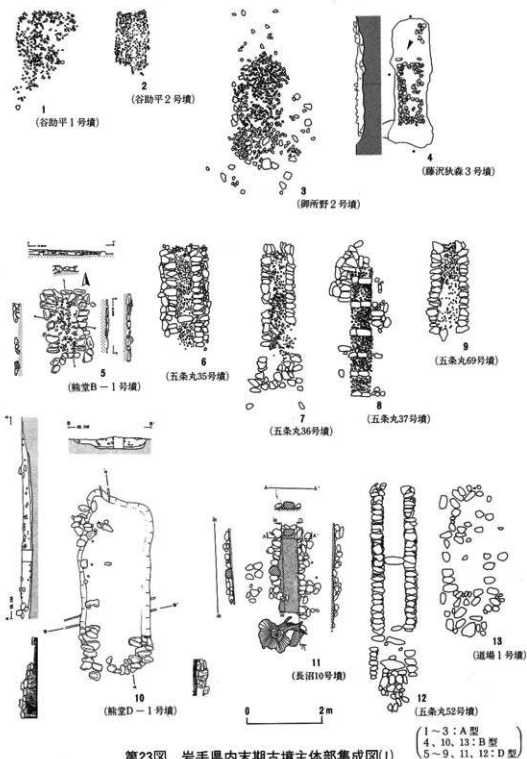
凡例：若手県内・青森県内所在の末期古墳のうち、調査が行われたものを集めた。円形周縁として報告されたものの一部も収録している。

主体部については高橋（1988）の分類によった。周縁は、A：全周するものB：一部で途切れるものC：半周するものD：2か所以上で途切れるものと分類した。長軸・短軸は周縁の外径である。幅は上縁の一般的値。深さは平均的深さである。

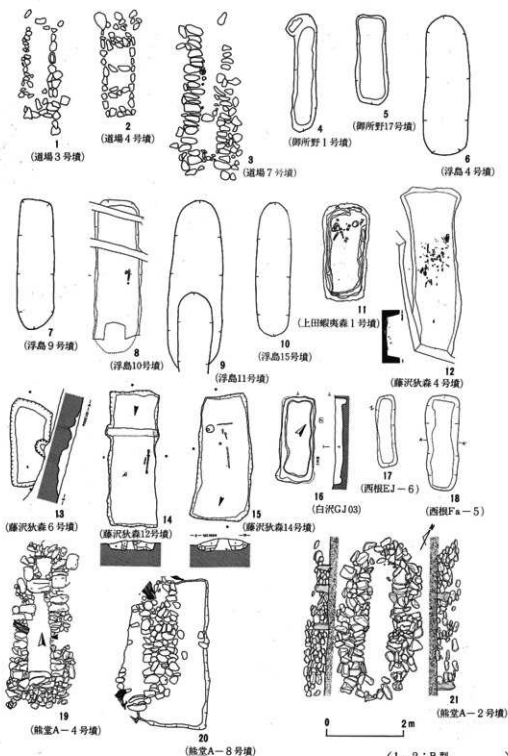
填一覧表 (7)

鉄							馬 具		玉					そ の 他		
直刀	短手刀	刀子	鎌	鍬	斧	その他	鞍	その他	勾玉	管玉	切子玉	小 玉	その他	紡錘車	銅	その他
											a 1				b A 1	
	a 1	a 1	b 2			a 足金具 1										a 耳環 1
																a 馬の歯
	a 1	a 1										a B185				
a 1		a 1	b 2			a 1										a 磁石 1
									a B 2		a 1					
a 1		a 2														
		a 1														a A 1
												a B27				
																a 銅製品 1
		a 1				a 方面大刀	b 1		a B 7		a 18	a A10B120	b B 1			a 銅製品 1
						a 騎兵金具			a B37 b B 2	a 2	a 20	a B191	a 空玉 石玉 1			
		a 1										a B122	a 空玉 1		b C 1	a 耳環 1
		a 1								a 2	a 18	a A 1 B368		b A 1		
b 1	b 1						b 1		a B47	a 4	a 17	a A4284	a 石玉 2 琥珀玉?		a C 1	a 空玉 2
a 2	a 1	b 1														
		a 1							a B33	a 1	a 12	a B207			a A 1	a 耳環 1
		a 1							a B 4			a A39B 3		b A 1		
a 1			a 13													
									a B 7	b 1	b 2	b B22				
		a 1						a 1								
a 1			a 1													
												a 10	a 琥珀玉 1			
		a 1		a 2												
a 1				b 1												
								b 1							a A 1	
a 2	a 1	a 7										a B12				a 金環 3
		a 1														

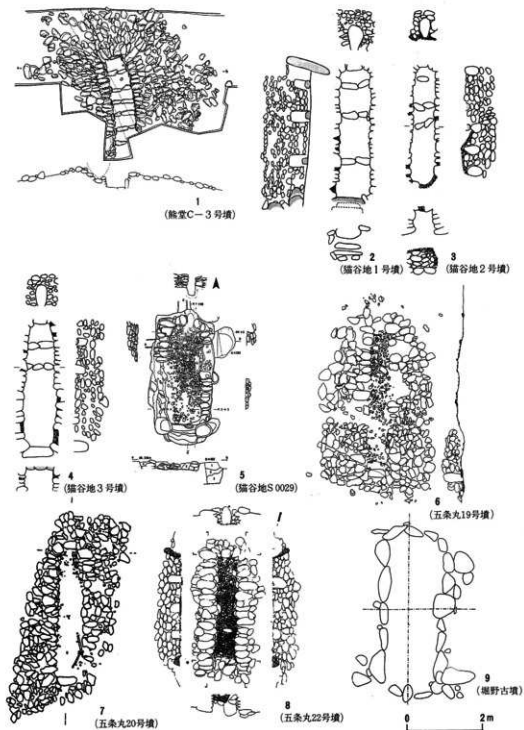
出土遺物標に付されている記号は、a：主体部出土b：剣土出土c：周縁出土で、数字は個体数である。勾玉標の記号は、A：土製、B：石製、小玉標の記号は、A：土製、B：ガラス製C：石製、紡錘車標の記号は、A：土製B：鉄製、銅標の記号は、A：鑄製B：鍛製C：鉄製である。
なお、藤沢秋吉古墳2号墳・3号墳が重複するが、後に掲載したものは昭和45年調査のもので、前者（昭和29年調査）とは別資料である。



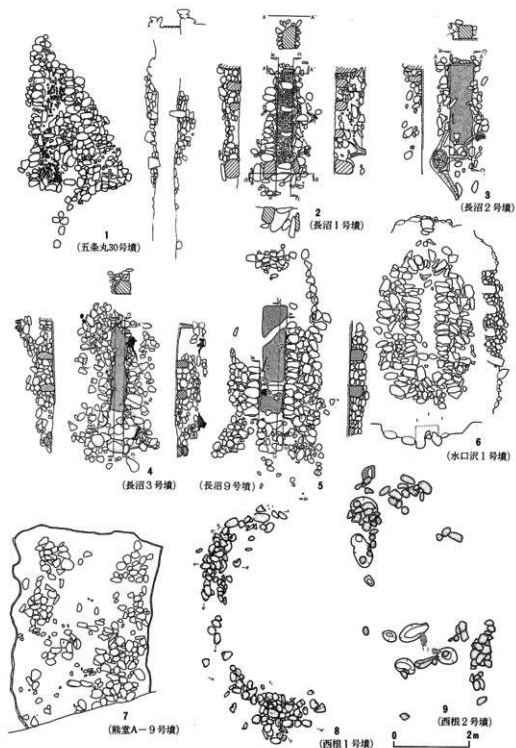
第23図 岩手県内末期古墳主体部集成図(1)



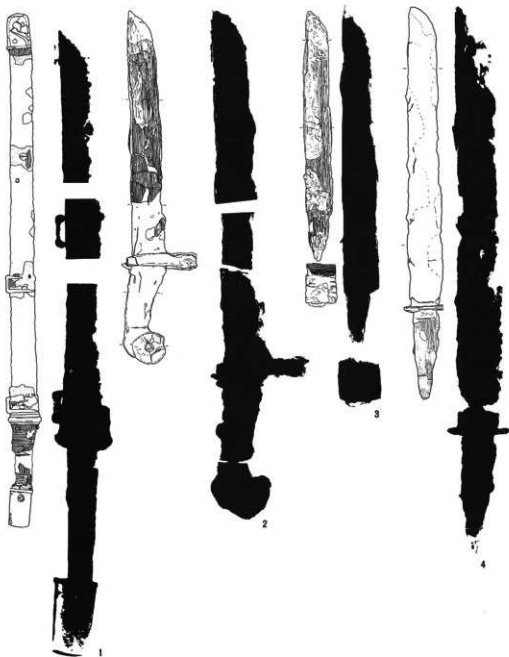
第24図 岩手県内末期古墳主体部集成図(2)



第25図 岩手県内末期古墳主体部集成図(3)
(1~8: E型もしくはF型)
(9: G型)



第26図 岩手県内末期古墳主体部集成図(4) (1-6: E型もしくはF型)
(7-9: 不明)



第27図 熊堂古墳および浮島古墳出土直刀・藏手刀 X線写真

(1. 熊堂B区 2. 熊堂A-4号墳)
(3. 浮島10号墳 4. 浮島4号墳)



第28図 和賀町長沼古墳および矢巾町藤沢狄森古墳出土直刀・
 蔽手刀 X線写真

(1. 長沼9号墳 2. 長沼12号墳 3. 藤沢狄森12号墳)
 (4. 藤沢狄森14号墳 5・6. 藤沢狄森古墳)

IV 熊堂・浮島古墳出土ガラス玉の分析

1. 分析法

蛍光 X 線分析法により実施した。この方法は非破壊で分析を行うことが可能なため、文化財の材質調査には広く一般に用いられている。以下に分析手順を示す。

- ① 試料ホルダー（重元素測定時は99.99%Al製、軽元素測定時は99.99%Ti製を使用）にポリプロピレンフィルムを張り、その上に両面テープで試料を固定し定性分析を行った。
- ② 定性分析チャートから含有元素の種類によりグループ分けを行った。
- ③ 各試料について、含有されている各元素のピーク強度（バックグラウンドを除去したもの）を測定し、P/Si（P：各元素のピーク強度、Si：ケイ素のピーク強度）を計算した。
- ④ 化学組成の明確な標準試料（NBS611、621、89）を使って、同様の方法により、含有されている各元素に対する P/Si を計算した。
- ⑤ ③、④で計算した P/Si と各標準試料の P/Si および含有元素量を比較し、出土ガラスに含有されている元素量を推定した。なお、元素量の推定を行うにあたっては、出土ガラスに含有されている元素の組成に近い標準試料を選択した。

測定条件は以下の通りである。

対陰極：Cr 印加電圧：電流 40 kV 30 mA 分光結晶 LiF、EDDT、Ge、ADP

2. 分析結果ならびに考察

定性分析の結果検出された元素は12元素であるが、全ての試料に含有されている Si・Ca・K・Al・Fe・Ti を除き、他の元素の含有の有無によって表21に示す 5 グループに分類した。

次に定性において検出された12元素について半定量を行った。表22に各グループごとの元素含有量を示す。但し、Co・Mn・Sn・Ba については標準試料に含まれず半定量できなかった。

ガラスは主剤の SiO₂ に融剤を加え、さらに目的とする色をつけるために発色剤を投入してつくられる。半定量の結果 SiO₂ はいずれも70%前後の値となり、熊堂・浮島古墳出土ガラスにおいては、製作時に一定量の主剤が用いられた可能性が高いことを指摘できる。

融剤には通常鉛（Pb）かアルカリ金属元素（K・Ca・Na）が使用される。前者は鉛ガラス、後者はアルカリ石灰ガラスと呼ばれ、大きく2つに分類されている。鉛はEグループに約2%含まれてはいるが、主たる融剤とはいえない量である。従って今回分析を行った試料は全てアルカリ石灰ガラスに分類される。AグループはCaが約10%と多いが、Kはその1/3程度の量である。BグループはCa・Kとも約5%である。CグループはCa・Kと少量であり、DグループはCaがごく微量、Kが3～5%含まれている。また、EグループはCa・Kとも約5%、Pb

が約2%含有されている。このことから5つのグループにおいて融剤の種類および含有量に明確な違いがあることが明らかとなった。

なお、本装置ではNaの検出は不可能である。半定量の結果主剤が約70%含まれている。発色剤その他は表22に基づけばA～Eいずれにおいても約10%であるため、残りは融剤であると考えられる。とすればCa・Kの少ないC、Dグループには多量のNaが含有されていることになるが、この点については溶解による定量分析の結果を待って再度確認しなければならない。

B、EグループにおいてはAlが10%程度と多量に含有されている。この元素は、硬化剤とする見方もあるが、その役割は不明である。あるいは原料および製作法に関係するものとも考えられるので、今後とも着目していく必要がある。

最後に発色剤について検討する。Aグループは紺色である。発色剤はCu・Fe・Coである。Bグループは青と緑の混合色である。発色剤としてはCu・Feがあげられる。Cグループは紫に近い紺色であり、発色剤はFe・Co・Mnである。Dグループは水色であり、Cu・Feが発色剤である。特に銅の含有量は約5%と他とくらべ特により多い。また、乳白剤としてSnが使用されている。Eグループの色は不透明な黄色であり、発色剤はFeと考えられる。コバルトは国内で産出しないとされていることから、A、Cグループについては輸入品の可能性も考えられるが、この点についても分析データの蓄積を待って慎重に判断する必要がある。なお、定性分析より平野コレクションNa123はDに、浮島No9はBグループに分類したが、半定量の結果前者はSn、後者はPbの量がそれぞれの属する他の試料と比べ多く、そのままD、Bグループに帰属すべきかどうか再検討の必要がある。

以上述べてきたこれまでの結果を要約すれば以下の点を指摘できる。

- ① 熊堂、浮島古墳出土のガラス玉には主剤としてSiO₂が一定量(約70%)用いられていた可能性が高いこと
- ② 熊堂、浮島古墳出土のガラス玉はすべてアルカリ石灰ガラスに分類されること
- ③ 含有元素の種類とその含有量から第29図に示す5グループに分類できること

A：融剤としてCaが多く、Kが少ない。発色剤はCu・Fe・Co

B：融剤としてCa・Kを同程度含む。発色剤はCu・Fe

C：融剤としてCa・Kが少量。発色剤はFe・Co・Mn

D：融剤としてKが多く、Caが少ない。発色剤はCu・Fe、乳白剤はSn

E：融剤としてPb・Ca・Kを含む。発色剤はFe

現在、他の遺跡から出土したガラスの分析データが少ないため、十分な比較検討ができない状況下にあるので、今後データの蓄積と定量分析の実施により、古代ガラスの製作と流通の実態に迫っていきたい。

(木村・赤沼)

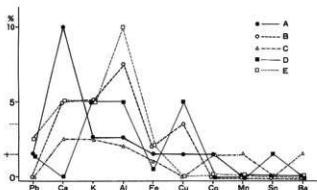
注1) 山崎一雄1952「古墳出土ガラス小玉の化学成分について」『古文化財の科学』

表21. 熊堂古墳群・浮島古墳群出土ガラス玉の半定量分析結果

計料No	色	Pb	Cu	Co	Mn	Sn	Ba	グループ
熊堂古墳群								
1	紺(不透明)	+	+	+	-	-	-	A
5	紺	+	+	+	-	-	-	A
9	濃紺	+	+	+	-	-	-	A
16	薄紺	+	+	+	-	-	-	A
17	濃紺(不透明)	+	+	+	-	-	-	A
18	紺	+	+	+	-	-	-	A
21	水色	+	+	-	-	+	-	D
24	青	+	+	+	-	-	-	A
27	青(不透明)	+	+	+	-	-	-	A
33	水色(半焼)	+	+	-	-	+	-	D
36	濃紺	+	+	+	-	-	-	A
38	濃紺(不透明)	+	+	+	-	-	-	A
40	紺	+	+	+	-	-	-	A
43	青紫	-	-	+	+	-	+	C
45	紺	+	+	+	-	-	-	A
50	濃紺(不透明)	+	+	+	-	-	-	A
56	紺(不透明)	+	+	+	-	-	-	A
59	紺	+	+	+	-	-	-	A
62	薄紺	+	+	+	-	-	-	A
68	青	+	+	+	-	-	-	A
平野 Coll.								
123	緑	+	+	-	-	+	-	D?
130	青	+	+	+	-	-	-	A
134	緑	-	+	-	-	-	-	B
137	緑青	-	+	-	-	-	-	B
140	青	-	+	-	-	-	-	B
142	紺	+	+	+	-	-	-	A
144	水色	+	+	+	-	-	-	A
145	紺	-	+	-	-	-	-	B
146	紺	+	+	+	-	-	-	A
147	紺	-	+	-	-	-	-	B
240	緑(不透明)	-	+	-	-	-	-	B
試料No	色	Pb	Cu	Co	Mn	Sn	Ba	グループ
浮島古墳群								
2	紺	+	+	+	-	-	-	A
3	青	+	+	+	-	-	-	A
9	紺(不透明)	-	+	-	-	-	-	B?
11	薄緑青	-	+	-	-	-	-	B
22	紺	-	+	-	-	-	-	B
24	青緑	-	+	-	-	-	-	B
29	紺	+	+	+	-	-	-	A
41	青紫	-	-	+	+	-	+	C
46	紺(不透明)	+	+	+	-	-	-	A
51	紺	+	+	+	-	-	-	A
52	紺	+	+	+	-	-	-	A
71	紺	+	+	+	-	-	-	A
79	紺	+	+	+	-	-	-	A
86	水色	+	+	+	-	-	-	A
87	青(不透明)	+	+	+	-	-	-	A
221	紺(不透明)	+	+	+	-	-	-	A
247	紺	+	+	+	-	-	-	A
248	青	+	+	+	-	-	-	A
254	緑(不純物)	-	+	-	-	-	-	B
286	青	+	+	+	-	-	-	A
287	青(不透明)	+	+	+	-	-	-	A
298	緑	-	+	+	-	-	-	B
301	水色	+	+	+	-	-	-	A
88-4	黄色(不透明)	+	-	-	-	-	-	E
88-9	青緑	-	+	-	-	-	-	B
88-16	薄緑青	-	+	-	-	-	-	B

表22. 熊堂古墳群・浮島古墳群出土ガラス玉の定性分析結果一覧表 (数字は%で示す)

グループ名	Si	Pb	Ca	K	Al	Fe	Cu	Co	Mn	Sn	Ba	Ti
Aグループ 65~75	<1	7~12	2~5	2~4	1~3	~1	+	-	-	-	<1	
Bグループ 65~75	-	3~7	3~7	5~10	1~3	3~5	-	-	-	-	<1	
Cグループ 65~75	-	2~4	2~4	2~4	1~3	-	+	+	-	+	<1	
Dグループ 65~75	<1	1~2	3~5	4~6	1~3	4~6	-	-	+	-	<1	
Eグループ 65~75	1~3	3~5	3~5	7~10	1~3	-	-	-	-	-	<1	



第29図 各グループの元素濃度パターン (ただしCo, Mn, Sn, Baは+, -による)

V 考 察

3カ年に亘る熊堂古墳および浮島古墳の調査によって、東北地方北部に分布するいわゆる末期古墳の調査例を加えることができ、新たな事実を確認することができた。末期古墳の研究は、従来1. 築造年代の問題、2. 被葬者の性格の問題、3. 古墳群の構造と一般集落との問題などを契機としながら、その歴史的な性格づけを最終的な目的として論じられてきて、その成果も少なくない。

この問題を最初に本格的に論じた沼山源喜治(1976)は、これら末期古墳群の特徴として、次の5点をあげている。1. 辺境地域に出現した古墳。時期変遷がみられない。2. 規模がほぼ均質、小規模である。3. 川原石積変形横穴式石室墳が主流。4. 副葬品が等質的。5. 北上川中流域とそれ以外の地域との古墳群の構造などの地域性。

これらの点は末期古墳を考える際の共通理解となっていたものである。その後の研究は、これらを肯定または否定する方向で進んでいる。今回の2つの古墳群の調査は、直接的に従来の研究成果に対して影響を及ぼすものではなかったが、近年新たな資料の増加もあり、それらをもとに、以下に一つの解釈を提示したいと考える。

築造年代は、比較的均質な性格としてとらえられている感のある末期古墳を論じるにあたって、最初に直面する課題である。高橋信雄(1988)は、これらの古墳群の主体部の形態の差異に着目し、それらに副葬される遺物との組み合わせと遺物自身の年代観を個々に組み立てることによって、年代的枠組みをこれまでよりさらに明確に示している。われわれの提示も、基本的に高橋の成果に基づいているが、そのうえで、とくにこれらの末期古墳は原則として追葬のない単葬墓であるという事実と、これらの副葬品がどの古墳群にも比較的普遍的にみられるという点を重視し、副葬品の組み合わせの観点をより深く検討することを第一義的に考えた。表7～13は、北上川中流域および馬淵川流域における末期古墳の副葬品を出土位置ごとにとりあげ、一覧にしたものである。さらに、これらについて副葬品相互の組み合わせがどのようになされるのかを示した(表23)。この結果が、古墳の築造年代とどのように関わってくるのか、個々の遺物の年代観とともに考察する。

これらの遺物のうち、現段階において比較的よく年代的変遷を追うことができるのは、土師器と須恵器であり、出土数は少ないものの、和同開珎と鈔帯金具も絶対年代を知り得る好資料である。また、最近では、直刀¹⁰の製作年代も、その構造と共伴する須恵器の年代などから、かなり詳細に知り得るようになってきている。

副葬品の出土位置について、主体部から出土するものと、周溝あるいは封土から出土するも

のでは、その意味内容および古墳築造との年代的関係などについて、同じレベルとすることはできない。しかし、ここでもおもに問題としている年代については、現在まで、明らかに著しく年代的懸隔を指摘されているものを除けば、だいたいにおいて、周濠・封土出土物についても古墳築造の年代のてがかりとなり得ると考えた。また、副葬品の伝世の問題がしばしば論じられるところであるが、複数の副葬品の組み合わせを検討することにより、極端な誤差の生じる可能性を軽減できるものと考えている。

さて、表23より、それぞれの副葬品の組み合わせに一定の傾向性を読み取ることができる。このうち、まず、それらのうち、年代的な問題に置き換え可能なものを検討する。

高橋（前掲）によると、おおむね、直刀は蔵手刀に先行する。両者が一つの古墳で共伴する例はきわめて少ない。一方、鉄鏃・勾玉・銅・須恵器は、それぞれ直刀にしばしば共伴するものの、蔵手刀に共伴する例はきわめて少ないか、知られていない。また、鎌や鋤先などの農具類、馬具、日常具に近い性格を有する砥石や紡錘車なども、蔵手刀とは伴出しない。これらを出土する古墳が直刀そのものの年代と須恵器・土師器などから7世紀後半を中心とする時期であることは次第に了解されつつある。しかし、蔵手刀を出土する古墳の実年代には、なお不鮮明な部分が多いものの、こうした副葬品の組み合わせの傾向性から、7世紀代の遺物をほとんど

	直刀	鉄鏃	勾玉	銅	須恵器	土師器	切子玉	ガラス玉	刀子	蔵手刀	土製小玉	備考
直刀	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	鉄鏃・土師器との共伴がやや多い。蔵手刀は少ない。
鉄鏃	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	蔵手刀は少ない。土製小玉とは共伴しない。
勾玉	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	ガラス玉多い。蔵手刀とは共伴しない。
管玉	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	玉類との共伴多い。蔵手刀とは共伴しない。
馬具	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	蔵手刀とは共伴しない。
銅	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	蔵手刀・土製小玉とは共伴しない。
鉄	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	蔵手刀とは共伴しない。玉類との共伴多い。
紡錘車	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	蔵手刀とは共伴しない。須恵器・刀子との共伴が多い。
砥石	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	共伴する遺物が限られる。
須恵器	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	蔵手刀とは共伴しない。土師器との共伴多い。
土師器	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	各種の副葬品と共伴する。
鉄鎌	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	蔵手刀・土製小玉とは共伴しない。
鉄斧	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	共伴する遺物が限られる。
切子玉	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	ガラス玉多い。直刀・蔵手刀少ない。
ガラス玉	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	土製小玉のほとんどと共伴する。
刀子	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	各種の副葬品と共伴する。
蔵手刀	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	勾玉・銅・須恵器とは共伴しない。
銅	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	出土例が少ない。
土製小玉	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	直刀・鉄鏃・銅・蔵手刀との共伴少ない。
和同開珎	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	共伴する遺物が限られる

表 23. 末期古墳副葬品相互の共伴関係

縦軸の副葬品目が、横軸の副葬品目と共伴する割合を百分率で示している。横軸の副葬品目との共伴数を縦軸の個々の副葬品目の総数で除して算出している。

◎ 76%以上 ○ 51~75% △ 26~50% ▲ 1~25% 一 共伴例なし

ど伴うことはない。また、共伴する副葬品の種類の多様性が失われる蔵手刀を副葬する古墳の年代が、直刀を副葬するそれより下と考えることは蓋然性が高いといえるだろう。

一方、玉類のうち勾玉は、蔵手刀と共伴することではなく、直刀との共伴例も少ない。この事実はまた別の説明を要すると考えられるが、とりあえず、その年代的な位置づけを考える。勾玉は、玉類では、管玉・切子玉・ガラス玉・土製小玉と共伴する。玉類以外では、刀子・鉄鏃・釧・馬具・土師器・須恵器・鎌・和同開珎など、帯金具・耳環などと共伴する。全体として、直刀と共伴する遺物を伴う傾向にあるが、和同開珎など、明らかに8世紀代の遺物も出土している。このことは、勾玉の副葬される期間が長期に亘っていることを示すものと考えられる。しかし、秋田県岩野山1・2号墳の例を除いて、矢巾町藤沢秋森2・5号墳や和賀町長沼3号墳・江釣子村五条丸19号墳・熊堂D-1号墳、青森県丹後平15・16・24号墳など、須恵器を共伴するものは、その年代が7世紀代のものと考えられる。土師器の年代もほぼ同様である。逆に、8世紀の後半段階まで下のような遺物との共伴例はない。他に直接年代を知り得るてがかりには乏しいが、勾玉の副葬は、8世紀の前半でも早い段階で衰退する傾向にあるといえそうである。直刀と伴出する副葬品の多くと共伴が認められるという事実も、この見解を補強してくれるだろう。

次に、同じく副葬品の組み合わせから、より新しい段階の古墳築造を知るてがかりを考える。和同開珎と鈿帯金具が、8世紀の前半を中心とする実年代を与えられることは動かしがたい。しかし、これらは出土数が多くなく、8世紀代の年代を与える根拠として、より普遍的な遺物が求められる。

土師器および須恵器は、8世紀の実年代を与えられる資料の副葬があまり明確ではない。一方、8世紀後半から9世紀ごろと考えられる資料が副葬される例が、一戸町御所野6号墳などに散見される。それらはほとんどが周埴からの出土である。この段階の須恵器は、少なくとも北上川流域・馬淵川流域では土師器と同様に主体部には副葬されないようである。

時期的にはかなり遡るものもあると考えられるが、末期古墳特有の副葬品と考えられるものとして、土製玉類があげられる。古墳の副葬品として出土するものは、すべて丸玉である。丹後平古墳や五条丸23号墳出土例などのように、漆を塗布したものが存在する。これらのほとんどは、ガラス製小玉と伴出し、土製のもののみで構成されることはきわめて稀である。土製小玉が主要な副葬品のほとんどと共伴していることから、そのまま単純に年代を推定する資料として用いることは困難である。

ところで、この土製小玉は、土製勾玉とともに8世紀代の集落跡から比較的多量に出土する例がある。北上川中流域では、水沢市膳性遺跡・今泉遺跡・石田遺跡など8世紀初頭から前半を中心とする時期に、馬淵川流域では二戸市上田面遺跡や中曽根遺跡など8世紀代全般に亘って出土している。同時代の、末期古墳と関係しない祭祀遺物との関わりにおいて問題を残して

いるものの、集落にそのまま廃棄されている土製玉類のありかたは、ガラス製小玉の補完的役割を担ったと考えるとすれば、副葬の年代の根拠の一つとなり得るのではないだろうか。すなわち、土製小玉は玉類副葬の後半段階に生じた絶対量の不足を一時的に補填したが、8世紀の前半段階にはすでにその役割を失いつつあり、集落への廃棄という過程をたどったものであろう。

以上の個々の副葬品の組み合わせからの年代観を、遺物それ自身の持つ年代に加味した形でまとめたものが表24である。なお、現段階で当地方においてもっとも古く位置づけられると考えられる古墳は、西根町谷助平1号墳と矢巾町藤沢秋森13・14号墳である。直刀・須恵器などを出土しており、いずれも7世紀中葉を前後する時期と考えられそうである。

ここで注意しなければならないのは、副葬品自体の持つ性格の意味づけと、年代差として置き換えることの困難な副葬品の組み合わせの問題である。この問題について論じた林謙作(1978)は、それぞれの副葬品を武器・農具・工具・馬具・玉類に分類し、個々の古墳に副葬される遺物の組み合わせに規則性のあることを明らかにし、それをもとに被葬者の性格を論じた。

副葬品それぞれに質的格差があり、それが被葬者の性格の大きな差となり得ることは、墳丘や主体部の規模に明らかな差異の認めがたい末期古墳の研究において重要な視点である。そこで、われわれは、林の研究結果を援用しながらも、個々の副葬品の組み合わせから出発することによって、また別の見解を提示できると考えた。

副葬品のうち、もっとも普遍的にみられる武器(品目)と玉類(品目)について検討する。表23より、直刀・蕨手刀と勾玉・管玉の組み合わせが少ないことが認められる。蕨手刀との組み合わせについては、年代差を考慮し得る可能性の高いことを指摘した。この傾向は、鉄鐏と勾玉類に関しても同様である。しかし、林によって同じ武器品目とされた刀子は、直刀や鉄鐏と比較すればはるかに多い共伴事例がある。一方で、同じ玉類でありながら、ガラス製小玉は勾玉類との共伴は高い確率で起きている。切子玉は、両者の中間に位置している。

林は、武器と玉類によって象徴される被葬者の性格を、それぞれ男性原理、女性原理と結びつけて解釈した。確かに、林の検討対象となった江釣子村五条丸古墳群以外においても、武器と玉類の副葬状況が同じ傾向にある。この現象を、被葬者の性別に置き換えて議論することは、今後被葬者そのものの遺体が検出される可能性も残されているので、なお慎重を期したい。一方で、林が解釈に苦慮した刀子とガラス玉については、副葬種目そのものの性格と関連づけて考えることができるように思われる。刀子の副葬状況をみると、直刀や鉄鐏に伴う形で出土する場合が少なくなく、また、単独で出土する例も多い。直刀が単独で副葬される例が少ないことと対照的である。鉄鐏は、両者の中間的傾向にある。同様な関係は、勾玉・管玉とガラス玉

品目 類型	直					刀		勾					玉	
	鉄	鎌	馬	具	須恵器	銅	勾玉	鉄	鎌	須恵器	管	玉	銅	
A	谷助平 1 丹後平 1				谷助平 1	谷助平 1			丹後平 15					
B	浮島 4 藤沢秋森12								熊堂D-1					
C	藤沢秋森14 丹後平 22 阿光坊 1 阿光坊 5	丹後平 21	浮島 10	藤沢秋森14	丹後平 21	藤沢秋森2 藤沢秋森5	藤沢秋森2 藤沢秋森5	藤沢秋森5	丹後平 16 丹後平 24 丹後平 21	藤沢秋森5	丹後平 16 丹後平 21 丹後平 23	藤沢秋森5	藤沢秋森5	
D	五条丸 6 五条丸 52 五条丸 69				五条丸 52	五条丸 14 五条丸 42	五条丸 52		阿光坊 3					
E	長沼 9 五条丸 22					五条丸 14	猫谷地 5 猫谷地 17 五条丸 19	五条丸 19 長沼 3 (太田順清表2)	長沼 3 (太田順清表2)					
F														

表24 直刀および勾玉とより古い段階と考えられる副葬品との組み合わせと主体部類型との関係

これらの古墳は、一部を除いておおむね7世紀代の築造と考えられる。

の間にもみることができる。全体の出土数と、副葬品の価値性に対する一般的解釈と考え合わせると、これらを1. 直刀・(脇手刀)・勾玉・(管玉)、2. 鉄鎌・切子玉、3. 刀子・ガラス玉という順序の価値性に置き換えることは可能かと思われる。このことについて、武器それぞれを鉄量に置き換える考えも出されているが、少なくとも鉄鎌と刀子を比較した場合、同時代集落跡から出土する両者の数量を比較すると、その割合が10:1程度であり、その一般性・日常性において両者の間に著しい差異があったことが認められるであろう。

したがって、より価値性の高い副葬品は林のいう男性原理と女性原理との区分が明確であり、低い副葬品はそのような区分原理が必ずしも明確でないと考えられそうである。さらに、時間軸の流れで考えると、先の年代的な検討結果から、より古い段階のものほど区分原理が明確で、新しい段階のものでは、こうした副葬の原理に崩れが認められそうである。

さて、高橋(前掲)は、末期古墳にみられる主体部の形態を10類型に区分し、それらがかなりの重複する部分を持ちながらも、ある程度年代差として把握できる可能性を指摘している。このことは、高橋の指摘以前にも、草間俊一(1961)などによりある程度議論されていた。

図23~26は、岩手県内の末期古墳の主体部を高橋の区分のもとに再整理したものである。これらのうち、G・H・I・J型は類例に乏しく、今後の資料の蓄積がまたれる。A型とB型は、浅い掘込みを有し段差を有することで共通し、整然とした石の配列を伴わないものである。この観点からすると、道場4号墳は、むしろD型に近いものとも考えられる。また、E型とF型についても、墳丘が著しく破壊されていた場合などはその識別が困難ことが多い。C型は、その識別については問題ないものの、平面形態、溝の有無などで多少の変異を持つようである。

このほか、いわゆる円形周濠のうち、末期古墳の築造年代と重複するものについて主体部の存在を想定することが可能である¹²⁾。

こうした主体部の類型の差異が、単純に年代差に置き換えられないことは高橋も指摘したところである。先の表より、副葬品の年代または副葬品の組み合わせから想定される年代とは相互に重複し、明確な対応関係が得られるわけではないことが理解される。このことは、主体部の分類をなお明確化する必要があると同時に、末期古墳に現れる主体部の変異について別の説明を必要としているものと思われる。また、8世紀代の主流と考えられたE・F型も、それら自身年代幅を持つものとして、とらえなおす必要がありそうである。この問題は、各種の主体部形態が確認されている熊堂古墳が格好の検討材料であるが、調査数が少なく、古墳群の全体像が今一つ明らかではない。そこで、複数の主体部類型を含み、比較的良好な量的・質的成果の得られている江釣子村五条丸古墳群を例に、主体部と副葬品、さらに古墳群の築造過程について検討しよう(第30図)。

五条丸古墳の群構造については、すでに沼山(前掲)の分析がある。73基からなる古墳群のうち、半数以上について規模、主体部、副葬品の概要をつかむことができる。主体部の形態をみると、これらの3分の2以上はD型に属し、しかも、分布は南東方向に偏在する。E型もしくはF型と目されるものは、北西方向に集中する。この区分は、かなり明瞭である。一方で、直刀や勾玉を副葬品として持つものは、北西から南東にかけて散見される。蔵手刀は、北西部分のみ検出されている。副葬品の不明瞭なもの、副葬品を持たないものも全般に分布する。

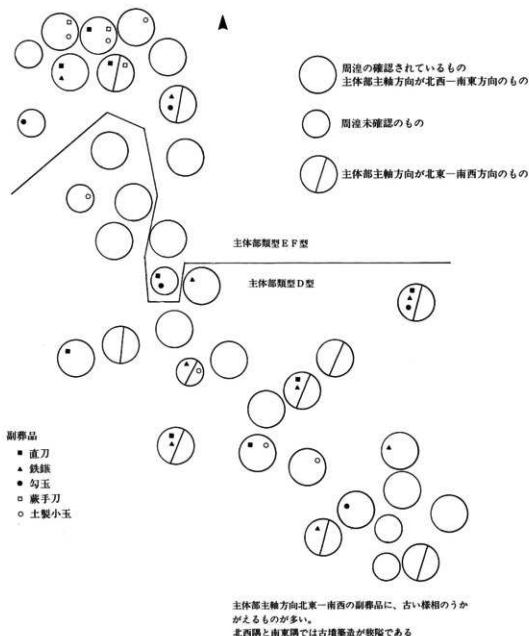
副葬品の年代および組み合わせでみると、主体部の形態の差をそのまま古墳築造の年代差として解釈することは困難である。むしろ、従来E・F型の退化が強調されてきたD型からの副葬品により古い要素を認めることもできそうである。具体的な年代幅についてはなお未確定であるが、両者の間の時間的重複は、副葬品からみる限り認めざるを得ないと考ええる。

さらに、主体部の主軸方向をみると、D型、E・F型とも、北西―南東方向をとるものと北東―南西方向をとるものがある。数的には、前者は後者の2倍ほどになる。後者は、比較的確かな分布を示す。前者の墳丘築造が、後者の間隙をぬってやや窮屈にみうけられる。後者の副葬品には、一部土製小玉を含むものがあるものの、蔵手刀などは含まず、これらの分布からみても、前者に比してより古い段階の築造と考えられるかもしれない。

以上の検討から、五条丸古墳群は、D型とE・F型がほぼ同時に築造が開始され、その後、分布を異にして時間的には並行して築造されていった可能性を指摘したい。なお、この場合、両者に、主体部の主軸方向の転換期があったと推測される。また、両者の数的不均衡は、五条丸古墳群全体の性格を考えるうえで興味深いであろう。

このような検討結果は、おそらく熊堂古墳群に対しても適用可能かと思われる。地域を拡大

してそれぞれの主体部のタイプの分布をみれば、C型は北上川中流域を南限とし、東北地方北半部ほぼ全域、さらには北海道式古墳の主体部と共通する要素を含んでいる。A・B型は、北上川上流域から馬淵川流域に分布の中心を持つ。E・F型は、北上川中流域が中心で、一部上流域にも分布を拡大している。D型は、現在のところ北上川中流域に限られるようである。



第30図 五条丸古墳群の主体部類型および主軸方向と副葬品の組み合わせ

それぞれの主体部類型の分布域の解釈および被葬者の性格の解釈はおくとして、北上川流域、馬淵川流域に所在する古墳群は、それぞれの地理的状況に応じて、群内に多様な主体部類型の変異を有している。熊堂古墳群は、その最たる例である。一方、浮島古墳群のように、調査例をみる限り、C型に限られるものもある¹⁹⁾。

これまで、主体部の変異を直接に古墳群の年代的差異などで解釈する場合が多かったようにみうけられる。しかし、主体部の形態は、古墳築造過程と被葬者の葬送儀礼にも深く関わる問題である。末期古墳の研究課題は多く残されたままであるが、まず、個々の古墳の調査に基づいて古墳群の構造をより明確化し、その後、古墳の系統や被葬者の性格の問題、さらには同時代集落との有機的関連を議論すれば、なおいっそう蓋然性の高い歴史的叙述が可能となるであらう。

(佐藤)

- (注) 1 ここでのいう直刀とは、同時代において柄頭が蕨状を呈する蕨手刀に対して用いており、小刀等を含んでいる。したがって、刀身のまっすぐな蕨手刀はこれに含まれない。なお、直刀の年代観について、東北大学大学院菊地芳朗氏から多大なるご教示を得ている。また、古墳の副葬品に関する基本的な考え方を、岩手県教育委員会文化課高橋信雄氏、東北大学大学院藤沢敦氏からご教示いただいた。
- 2 円形周埴について、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター玉川英喜氏からその形態分類を含め、多くの資料をご提供いただいた。
- 3 今回の調査によって明らかになった主体部の形態は、4号墳など以前の調査で知られていた形態と異なっている。この問題も、課題として残されたものの一つである。

岩手県立博物館調査研究報告書 第六冊

熊堂古墳群・浮島古墳群発掘調査報告書

印刷 1990年3月24日

発行 1990年3月31日

編集 岩手県立博物館

〒020-01 盛岡市上田字松屋敷34番地

TEL (0196) 61-2831

発行 (財)岩手県文化振興事業団

〒020 盛岡市内丸13番1号

TEL (0196) 24-1171

印刷 株式会社 杜陵印刷
